

資料紹介

井上哲次郎「巽軒日記―大正四年 上半期―」

村上 こずえ
森本 祥子

翻刻にあたって

明治期から昭和戦前期にかけて哲学者として活躍した、井上哲次郎（一八五五―一九四四年）の日記『巽軒日記』の大正四年一月から七月について引続き紹介したい。この年の四月二十四日には在職二十五年記念祝賀会が催されたことが記録されている。なお、凡例については第三一号で述べていることから割愛する

巽軒日記

大正四年（西暦一九一五）「乙卯」 上半期

一月

一日、午前、晴天、常盤大定より小包を送来る、○枡田秀乗来る、○雑誌類を読む、○益之進軽快、○午后、吉田熊次、島本愛之助、上村邦良来る、○校正を日清印刷に送る、○「晏子春秋」を読む、○夜、校正、○「晏子春秋」を読む、○此日、来賀者拾四名、賀状三百〇四通、○家族年齢如左、

主人……………六十一歳（安政二年十二月廿五日生）
縫子……………五十五歳（文久元年五月十二日生）
雪子……………三十四歳（明治十五年六月十一日生）
清子……………二十四歳（明治廿五年九月廿九日生）
宣光……………二十一歳（明治廿八年二月八日生）
春枝……………十八歳（明治三十一年二月十二日生）
正勝……………十六歳（明治三十三年八月廿四日生）
益之進……………拾二歳（明治三十七年九月二日生）
高子……………拾歳（明治三十九年十一月廿一日生）
二日、午前、晴天、校正、○小中村清象来る、乃ち共に昼食をなす、○午后、浦谷熊吉来る、○児輩、吉田宅及び姉崎宅に赴く、○校正を日清印刷に送る、○「晏子春秋」を読む、○夜、校正、○「晏子春秋」を読了る、○此日、来賀三人、賀状七十通、○富田順吉より小包を送来る、
三日、午前、晴天、水道町の押田宅より小児、菓子壺箱を携来る、○林勃爾及び間端吾来る、○校正、○「鬼谷子」を読む、

○姉崎宅の子供等年始の為に来る、○「時局に對する青年の覚悟」向上に出づ、○午后、校正、○益之進愈々輕快、○「鬼谷子」を読む、○運動に神田に赴き、書籍五部を求む、○贈物を吉田榮次郎及び野尻某に送る、○夜、校正、○「鬼谷子」を読む、○此日、来賀者九人、賀状二十八通、○校正を日清印刷に送る、

四日、午前、晴天、末松謙澄来る、○午后、岩橋遵成、山田修来る、○年始状拾通を發送す、○夜、校正、○「鬼谷子」を読む、○来賀者三人、賀状貳拾貳通、

五日、午前、晴天、校正、○「鬼谷子」を読む、○縫子、益之進を拉して大学小兒科に赴く、○浅倉屋より海苔と手帳二冊を送来る、○入澤宗壽、伊勢の名産を携来る、○午后、校正を日清印刷に送る、○「鬼谷子」を読む、○小橋三四子来る、○在倫敦上西半三郎より来状、○運動に音羽方面に出づ、○夜、年始状數十通を發送す、○鈴木喜三郎より来状、○「鬼谷子」を読む、○此日、来賀状拾壹通、

六日、午前、晴天、深作淺次郎及び帝国学士院より来状、○宣光徴兵適齡に付区役所に赴く、○森良三郎来る、○「鬼谷子」を読む、○「中学漢文」五卷各七百部（合計三五〇〇部）の奥附を光風館に付与す、○午后、加藤玄智来賀す、○吉田雪子、角田松壽来る、○校正、○「鬼谷子」を読む、○正勝を巢鴨に遣はす、○広文堂員、風呂敷を携来る、○夜、校正を日清印刷に送る、○「鬼谷子」を読む、○此日、来賀状拾通、○女子に関する談話、読売新聞に出づ、○此日、富田政喜及

び井上久子より縫子に來状、〔六日頁下部に「拜山画伯失明す（八日午後福岡発）」の新聞記事切抜貼付〕

七日、午前、曇天、吉田榮次郎、松田孫治郎及び帝国学士院等より来状、○森良三郎来る、○校正、○「鬼谷子」を読む、

○浅倉屋より「全文抱朴子」を送来る、○電話使用料金拾六円五拾銭を郵便局に納む、○人物月旦、世界新聞に出づ、○雪、既にして霽、既にして雨、○在大分県秦政次郎より蜜柑壹籠を送来る、○午后、又雪、○日清印刷より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○阿部維巖より蜜柑壹箱を送来る、○大浦兼武、農相より内相に転じ、河野廣中、農相となる、○「鬼谷子」を読了す、○再び校正を日清印刷に送る、○夜、校正を日清印刷に送る、○「尉繚子」を読む、○風雪、○書状を吉田修夫、吉田豊吉、阿部維巖、秦政治郎、友枝高彦に送る、○竹内康二、写物を携来る、○此日、唐川徹、佐竹制心、畑徳三郎より賀状来る、

八日、午前、曇天、満都、堆雪皚々、○群馬県知事三宅源之助及び Asiatic Society of Japan より来状、○長屋順耳及び杉原九郎より賀状来る、○森良三郎来る、○森良三郎を鶴澤総明宅に遣はす、○島本愛之助来る、○三井銀行に赴く、○「尉繚子」を読む、○午后、委員会に帝国学士院に赴く、○日清印刷より校正来る、○「尉繚子」を読む、○夜、松原一義来る、○校正を日清印刷に送る、○久保猪之吉、高木善人等より来状、○書状を久保猪之吉に送る、○赤祖父順雷より来状、○春枝、帝劇に赴く、

九日、午前、晴天、森良三郎を飯田町登記裁判所に遣はす、○日清印刷より校正来る、○岡田朝太郎、山口英爾、河杉彦藏等より来状、○校正を日清印刷に送る、○校正、○齋藤精輔来る、○書状を白井成允に送る、○午后、向ひの桐原の妻来る、○人物月旦、東京毎日及び土陽新聞に出づ、○上野竈太郎、林檎壺籠を携来る、○魚住淳吉、丸善の商券を携来る、○校正、○小島政吉より来状、○広文堂より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○書状を蠣瀬彦藏、松浦一、小島政吉、尾上八郎に送る、○「尉繚子」を読む、○夜、田中平治より来状、○「尉繚子」を読む、○書状を吉岡拜山及び岡田良平に送る、

十日、午前、晴天、日清印刷より校正来る、○須之部量字より来状、○小山軻繪来る、○校正、○広文堂員、校正を携来る、○「尉繚子」を読む、○午后、齋藤襄吉より来状、○小杉熙来る、○校正を日清印刷に送る、○「尉繚子」及び「諸子大意」を読む、○齋藤襄吉より「神の道」を送来る、○夜、勉強、十一日、午前、雨天、森良三郎来る、乃ち之を登記裁判所に遣はす、○講義に大学に赴く、○広文堂員来る、○隣地・家屋・二棟を村松喜太郎より買受く、其代価金二千四百七拾五円也、○人物月旦、土曜新聞に出づ、○寺島天園、高木兼寛の紹介にて来る、○鈴木宇良安より来状、○午后、晴天、上村邦良、白井成允来る、○校正、○校正を日清印刷に送る、○夜、校正を日清印刷に送る、○「富と徳と寿」一徳に出づ、○夜、校正を広文堂に送ること二回、○此日、島本愛之助より来状、

○吉岡拜山逝く、享年七十、「頁下部に「吉岡拜山翁死す」の新聞記事切抜貼付」

十二日、午前、晴天、蓮沼門三より来状、○所得税金一三、二二及び府税市税金六、五五、合計金三九、七七を郵便局に納む、○校正を広文堂に送る、○女中澄江を日本銀行に送る、○再び校正を広文堂に送る、○六盟館より使者来る、○午后、角田松壽、櫛引成太来る、○校正を広文堂に送る、○星野恒を訪ふ、○夜、帝国学士院に赴く、○広文堂より校正来る、○在米国久保良英及び在沖繩清水駿太郎より来状、○校正を広文堂に送る、○日清印刷より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○「尉繚子」を読む、

十三日、午前、半晴、学習院に赴き、尋いで女学部へ赴く、○多木悦造より林檎壺箱を送来る、○白井成允、「日本道学淵源録」を携来る、○鳩山一郎及び齋藤延より来状、○午后、宮坂詰宗、速記を携来る、○校正を広文堂に送る、○書状を竹内康二に送る、○夜、校正を日清印刷に送る、○吉岡拜山の計報来る、○井上みちきより縫子に來状、○此日、野田義夫より「教育学概論」を送来る、○祝儀の贈物を板垣退助宅に送る、○支那の書家楊守敬逝く、○弘道館より来状、十四日、午前、晴天、鳩山春子より来状、○日清印刷より校正来る、○勉強、○森良三郎来る、乃ち之を区役所に遣はす、○竹内康二来る、乃ち之に書籍二冊を付与す、○午后、講義に大学に赴く、○「実業修身」二千八百五十部の奥附を六盟館に付与す、○大橋秀治より来状、○村松清陰来る、○夜、

校正を日清印刷に送る、○日清印刷より校正来る、○再び校正を日清印刷に送る、○三越より来状、○角田松壽より報告書を送来る、○星野毅、金子胤徳、居相権六、手塚良道、椎名長吉、東亜協会々員となる、

十五日、午前、晴天、島本愛之助来る、○在米国矢吹慶輝より来状、○岡田良平より礼状来る、○「神道の要領」娘子軍に出づ、○午后、女中澄江を三菱銀行に遣はす、○姉崎袖子、全益子来る、○小山鞆繪板垣良子結婚披露会に築地精養軒に赴く、○板垣退助、清浦奎吾、千頭清臣、鈴木充美等と会見す、○夜、九時頃帰宅、○東亜協会より来状、○帰一協会より来状、○浅倉屋より小包を送来る、○書状を角田松壽に送る、十六日、午前、晴天、書状を寺島天園に送る、○校正、○角田松壽来る、○内田銀藏より書状と論文二篇とを送来る、○修養団員岩佐珍の計報来る、○午后、校正を日清印刷に送る、○池田久未次郎及び邨田雄亮来る、○金式円の為換入の書状を吉岡鼓山に送る、○夜、愛国同志会に神田基督教青年会館に赴き、一場の演説をなす、○高木兼寛、山口彈正、上岡壽夫、多田義堂、寺島天園等と会見す、○三原道太郎より来状、十七日、午前、晴天、松浦一来る、○春枝、高子と相携へて横浜に赴く、○校正、○金港堂員及び広文堂員来る、○午后、宮坂喆宗来る、○校正、○校正を日清印刷に送る、○日清印刷より校正来る、○山田三良より書状と原稿とを送来る、○「桜花詠」の序を草す、○再び校正を日清印刷に送る、○縫子、益之進を拉して日比谷公園に遊ぶ、○須賀友弥、寺島

天園及び蟹江操子来る、○夜、日清印刷より校正来る、○「桜花詠」の序成る、

十八日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○井上円了及び笹倉新治より来状、○午后、森良三郎、大倉廣三郎、多田義堂、島本愛之助、角田松壽来る、○校正、○夜、文科大学、帝国学士院及び日本武道会より来状、○校正を日清印刷に送る、○松原一義来る、○書状を島本愛之助に送る、○Asiatic Society of Japanより来状、○此日、佐藤小吉及び田村安太郎より来状、

十九日、午前、晴天、広文堂員及び邨田雄亮来る、○校正を日清印刷に送る、○専ら校正に従事す、○山崎亀太郎より来状、○午后、日清印刷より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○高楠順次郎及びGustav Fockより来状、○縫子、吉田宅及び姉崎宅に赴く、○書状を高楠順次郎及び田中芳男記念資金募集事務所に送る、○角田松壽来る、○多田義堂より書状と原稿とを送来る、○夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○校正を日清印刷に送る、○日清印刷より校正来る、○原稿を多田義堂に送る、

二十日、午前、晴天、学習院に赴き、尋いで女学部に赴く、○午后、文科大学の教授会に赴く、○不在中鈴木弘来る、○文明協会より「科学思想発達史」及び「列強権力問題」を送来る、○松原一義より来状、○大金来る、○広文堂員来る、○夜、校正を広文堂に送る、○勉強、

廿一日、午前、晴天、東亜協会及び日之出生命より来状、○書

状を島本愛之助及び日之出生命に送る、○「独逸の国家主義、と日本の国家主義」中外日報に出づ、○宮坂喆宗、鈴木弘、及び広文堂員来る、○勉強、○帝国学士院より来状、○午后、日清印刷より校正来る、○杉山直記より速記を送来る、○講義に大学に赴く、○島本愛之助来る、○校正を日清印刷に送る、○夜、原稿を島本愛之助に、書状を宮坂喆宗及び山崎龜太郎に送る、○校正を日清印刷に送る、○史記の屈原列伝を読む、○竹内康二、写物を携来る、○芳村正秉逝く、享年七十七、

廿二日、午前、曇天、中川愛氷、邨田雄亮、鈴木弘来る、○松浦伯爵及び玉利喜造より来状、○日本銀行に赴き、尋いで三井銀行に赴く、○昼食を多賀羅亭に取る、○午后、山崎龜太郎、池田林儀来る、○文科大学及び峯間信吉より来状、○書状を白井成允に送る、○文科大学々友会より来状、○山上御殿に赴く、○不在中板垣絹子来る、○夜、三上参次より来状、○校正、○史記の屈原列伝を読む、○此頃国書刊行会より「徳川文芸類聚」(第九)を送来る、

廿三日、午前、曇天、辻本卯藏より来状、○校正、○女中松枝を大学に遣はす、○校正を日清印刷に送る、○明治聖徳記念学会より来状、○午后、日清印刷より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○大金来る、乃ち之に金五拾円を付与す、○校正を日清印刷に送る、○夜、校正、○「日本人の長所を自覚せよ」中外日報に見ゆ、○雪、

廿四日、午前、半晴、J.T. Swiftより来状、○森良三郎、白井

成允父子、船田三郎来る、○宅地租金七、五八五及び府税市税金二、五六五、合計金一〇、一五を郵便局に納む、○大野太衛より来状、○午后、書状をJ.T. Swiftに送る、○押田三郎、得能文妻、吉田熊次、松原一義来る、○日清印刷より「東亜の光」口絵来る、乃ち之が解題をなして送返す、○縫子、益之進を拉して国技館に赴く、○夜、勉強、○島本愛之助より来状、

廿五日、午前、晴天、樫尾治、飯島利七、辻本卯藏より来状、○講義に大学に赴く、○日清印刷より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○午后、小林一郎、岩橋遵成及び齋藤基次郎妻来る、○「教界春秋」を草す、○「日本経済叢書」第八卷来る、○近藤次繁より来状、○玉利喜造より「内観の人類進化説」を送来る、○夜、中熊直喜より来状、○「教界春秋」を日清印刷に送る、○史記の屈原列伝を読む、

廿六日、午前、曇天、浦谷熊吉及び広文堂員来る、○鳥居龍藏より「理科大学紀要」を送来る、○副島八十六より来状、○富田才治「治」の横に「次」とあり、東亜協会々員となる、○床屋に赴く、○午后、角田松壽来る、○日清印刷より校正来る、○校正、○姉崎正治、島本愛之助及び渡辺誠吾より来状、○校正を日清印刷に送る、○縫子、博品館に赴く、○夜、文科大学、及びDr. Jos. Dahmann等より来状、○校正を日清印刷に送る、

廿七日、午前、晴天、学習院に赴き、尋いで女学部に赴く、○六盟館より「実業修身」を送来る、○「大日本仏教全書」来る、

○午后、教授会に山上御殿に赴く、○飯田重成来る、○夜、Asiatic Society of Japan の総会に芝三縁亭に赴く、Swift、Mathews、吉川男爵嘉納治五郎并に米国大使館附 Chaplain Franz J. Feinler 等々見ゆ、○Prof. R.C. Whinnack の講演あり、○不在中松原一義来る、○六盟館より「実業修身」を送来る、

廿八日、午前、雨天、末松謙澄より来状、○勉強、○腸加答児を思ふ、○高木益太郎より来状、○午后、講義に大学に赴く、○船田三郎来る、○日清印刷より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○夜、松原一義及び伊藤吉之助来る、○伊藤吉之助にへーゲルの Logik 三冊を貸附す、

廿九日、午前、晴天、深作安文、上村邦良、池田林儀、島本愛之助、和辻哲郎来る、○午后、辻本卯藏より来状、○校正、○大橋秀治、小中村清矩来る、○金港堂より奥附壱包を送来る、○夜、「新編修身」二千五百部の奥附を金港堂に付与す、

○夜、校正を日清印刷に送る、○明慶宮三郎より来状、○校正、三十日、午前、晴天、日清印刷より校正来る、○校正を日清印刷に送ること二回、○史料編纂掛に赴き、藤樹書院の書籍二部を返付す、○大学図書館に赴く、○書状を添野信に送る、○午后、文科大学及び山鹿先生全集刊行会より来状、○「哲学と宗教」の序を草して之を日清印刷に送る、○夜、哲学会に第一学生集会所に赴く、○石川教授祝賀発起人及び山崎洋服店より来状、

卅一日、午前、曇天、七、○○上野出発、船田三郎送来る、○

一一、三〇頃西那須野着、添野信来迎ふ、直に太田原中学校に赴く、校長田村安太郎、神官手塚某等と会见す、○午后、「乃木大将に就いて」、一場の講演をなす、○帰途、石林村に入り乃木大将の別荘及び乃木神社の敷地を觀て西那須野に到る、○四、二二出発、添野信送来る、○夜、九、○○上野着、九、三〇帰宅、○不在中森良三郎、伊藤吉之助、井上泰岳、阿部東作来る、○丸善より来状、○日清印刷より校正来る、○古谷栄一より「オイケン哲学の批難」を送来る、○此日、汽車中「不可不讀」を読む、○此頃、Who's Who in the Orient 1915 を購入す、○日本に於ける独逸の俘虜数は四四六〇余なり、日露戦役に於ける露国の俘虜数は七一八〇〇なり、○「東亜の光」(二〇の二)成る、

二月

一日、午前、曇天、講義に大学に赴く、○「中学漢文」三百部の奥附を光風館に付与す、○午后、晴天、池田林儀、井上泰岳、白井成允、加島虎吉、大壁早治、橋本虎吉来る、○井上泰岳、東亜協会々員となる、○校正を日清印刷に送る、○明慶宮三郎よりスルメ壱包を送来る、○須藤求馬、加藤栄太郎、古谷栄一より来状、○「日独国民性の相違点」成功に出づ、○夜、文科大学及び鈴木宗忠等より来状、○書状を島本愛之助及び竹内康二に送る、○校正、○校正を日清印刷に送る、二日、午前、曇天、校正を日清印刷に送る、○光風館員及び坂本謹吾来る、○午后、辻本卯藏、新村喜一郎、角田松壽、及び広文堂員来る、○島本愛之助より来状、○書状を加藤栄太

郎に送る、○児玉九十及び池田澄達、東亜協会々員となる、○竹内康二来る、乃ち之に書籍一冊を付与す、○姉崎宅に赴く、○雨、○夜、雨天、小林琛見より来状、○勉強、○此日、上田萬年帰朝す、

三日、午前、曇天、大隈伯爵及び太田資順より来状、○学習院に赴き、尋いで女学部に赴く、○日清印刷より校正来る、○補永茂助及び添野信より来状、○岡野義三郎より寒気見舞状来る、○午后、大学に赴き、上田萬年を学長室に訪ひ、尋いMathews Gulick等と会見し、法科の三十二番室に於てMathewsの講演を聴く、○「古学哲学」五拾部の奥附を富山房に付与す、○校正を日清印刷に送る、○中熊直喜より来状、○富山房より「漢文大系」一冊を送来る、○文部省より書籍数冊を送来る、○日清印刷より校正来る、○夜、大澤謙二退職の為に催されたる晚餐会上野精養軒に赴く、○不在中寺島天園来る、

四日、午前、曇天、大原保、田村安太郎、三浦七右衛門より来状、○日清印刷より校正来る、○寺島天園及び須賀友弥、御礼の為に来る、○研究、○山崎亀太郎より来状、○午后、雨天、講義に大学に赴く、○日清印刷より校正来る、○Charvoz, Les grandes Religions de l'Orientを送る、○風雨、○校正を日清印刷に送る、○夜、書状を大原保に送る、○校正を日清印刷に、書状を榎本勝多に送る、○節分、五日、午前、曇天、秋山眞之より「古典講義録」を、至誠堂より「活修養」及び「吐雲録」を送来る、○相原熊太郎、遠藤

七兵衛、島本愛之助来る、○揮毫、○帰一協会より来状、○午后、揮毫、○校正、○夜、哲学談話会に山上御殿に赴く、○日清印刷より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○帝国学士院、及び日之出生命保険会社より来状、○東亜協会より原稿を送来る、

六日、午前、晴天、校正を日清印刷に送る、○午后、白井成允来る、乃ち之に孔子を祭る文を付与す、○浦谷熊吉来る、○校正、○日清印刷より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○校正を広文堂に送る、○「雲養集」を読む、○夜、「雲養集」を読む、○書状を末松謙澄に送る、○「泰山遺説」を読む、○此日よりThe Japan Daily Mailを取る、

七日、午前、晴天、広文堂員来る、○東敬治来る、乃ち之に「竹庵遺稿」を貸付す、○校正、○益之進、慢性腹膜炎の疑あり、○「六経略説」を読む、○午后、押田清子及び漢文学会事務所より来状、○「六経略説」を読む、○宮坂喆宗来る、○日清印刷より校正来る、校正を日清印刷に送る、○書状を太田資順、山崎亀太郎及び相原熊太郎に送る、○縫子、春枝及び益之進と共に三越に赴き、更に博品館に到る、独り春枝のみは三越より帰る、○運動に音羽方面に出づ、○夜、「日本魂の象徴」中外日報に出づ、○「孔子家語」及び「孔子履歴考」を読む、○勉強、

八日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○弘道館の使者、校正を携来る、○縫子、益之進を拉して大学病院に赴く、○女中澄江を三井銀行に遣はす、○東亜協会より来状、○The

–8 (111)–

○夜、日本学会に山上御殿に赴く、

十五日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○甘木富田より小包を送来る、○久保正太郎来る、○縫子、益之進を拉して大学病院に赴く、○午后、校正、○宮坂喆宗、甫守謹吾、白井成允来る、○校正を広文堂に送る、○「哲学と宗教」を白井成允及び中島徳藏に送る、○鈴木弘来る、○書状を竹内康二に送る、○夜、杉山直喜来る、○校正を広文堂に送る、○校正、○櫛引成太来る、

十六日、午前、晴天、蓮沼門三より来状、○森良三郎来る、○校正を広文堂に送る、○「中学漢文」一千九百部の奥附を光風館に付与す、○午后、書庫内を整理す、○「内観的人類進化説」を読む、○浅倉屋より「医心方」を送来る、○運動に大塚方面に赴く、○不在中東敬治来る、○川島亀夫来る、○「中学修身」三百五拾部の奥附を弘道館に付与す、○夜、「陽明哲学」五拾部の奥附を富山房に付与す、○竹内康二来る、乃ち之に書籍老冊を付与す、○杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○「医心方」を読む、此日、濱田玄達逝く、享年六十二、

十七日、午前、曇天、学習院に赴き、尋いで女学部に到る、○「南洲手抄言志録」を大迫大将に貸付す、○東亜協会及び R. C. Armstrong より来状、○午后、亀谷聖馨より来状、○ R. C. Armstrong より Light from the East: Studies in Japanese Confucianism を、文明協会より「独逸世界政策」及び「生命之不可思議」(下巻)を送来る、○濱田玄達の訃報来る、

○東洋大学より来状、○広文堂員、校正を携来る、○ R. Eisler, Wörterbuch der philosophischen Begriffe 及び R. Eucken, The Meaning and Value of Life を読む、○夜、引き続き Eucken を読む、○ Asiatic Society of Japan より来状、○校正を広文堂に送る、

十八日、午前、晴天、校正を広文堂に送る、○杉山直喜より速記を送来る、○帝国学士院より来状、○研究、○「横浜民報」を送来る、○ Büchner, Kraft und Stoff を読む、○午后、講義に大学に赴く、○広文堂より小包を送来る、○速記を訂正す、○校正、○丸尾永助来る、有故不遇、○亀谷聖馨より来状、○夜、校正、○原稿を島本愛之助に送る、○広文堂員来る、乃ち之に校正を付与す、○島本愛之助より来状、

十九日、午前、雲霏々、澁澤栄一及び小林鼎より来状、○押田清子より縫子に来状、○学生神宮某、大橋秀治及び広文堂員来る、○校正を広文堂に送る、○校正、○「現代の外來思想と国体」惟神に出づ、○午后、校正を広文堂に送る、○弘道館より使者来る、○「女子修身」三千部の奥附を金港堂に付与す、○書状を長井眞琴に送る、○「教界春秋」を草す、○夜、大田黒作次郎、土産を携来る、○杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○「経子説」を読む、

二十日、午前、晴天、森良三郎来る、○村松喜太郎・移転す、隣家係争問題、是に於てか全く解決したる、○日清印刷会社より「東亜の光」口絵を送来る、○家屋税附加税追加金三、二九を郵便局に納む、○「東亜の光」口絵解題を日清印刷会

社に送る、○書状を濱田捷彦、伊藤謙一、濱西正太郎に送る、
○午后、「教界春秋」を草す、○有賀清海、深作安文、島本
愛之助来る、○隣家に入り、各室を検分す、○夜、「教界春秋」
を日清印刷に送る、○此日、上野精養軒及び東京朝日新聞等
より来状、

廿一日、午前、晴天、三上義夫、片山清太郎、清水清之助来る、
○広文堂員来る、○東敬治来る、○午后、比佐祐次郎及び津
端一脩来る、○研究、○「古文尚書総弁」及び其数種の書類
を検読す、○加藤弘之、秋元俊吉、菊池大麓等より来状、○
宮坂喆宗来る、○夜、「講習余筆」を読む、○杉山直喜より
速記を送来る、○勉強、

廿二日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○益之進を拉して大
学病院小児科に赴く、○森良三郎来る、○午后、徳富猪一郎
及び東洋大学より来状、○川島亀夫、巡查竹本某、上岡壽夫、
稻山始、瀬川頼太郎、藤森楸来る、○「新編修身」二千五百
部の奥附を金港堂に付与す、○文科大学より来状、○夜、齋
藤精輔来る、○書状を妹尾勇吉に送る、○校正、

廿三日、午前、晴天、長井眞琴より来状、○多田義堂より書状
と「大日本世界教宣明書」とを送来る、○校正、○「国民の
精神的特徴を發揮せよ」国民精神に出づ、○竹内康二、写物
を携来る、○「日本道学淵源録」九卷全部写了る、○縫子、
参観の為に高等師範附属小学校に赴く、○広文堂員、校正を
携へて来る、○午后、曇天、校正を広文堂に送る、○「実業
修身」一千六百五十部の奥附を六盟館に付与す、○「実業修

身」十七校に採用せらる、○書状を白井成允、山崎亀太郎、
澁澤事務所及び田所美治に送る、○夜、東亜協会より来状、
○校正を日清印刷に送る、○校正、○書状を東京社に送る、
廿四日、午前、晴天、学習院に赴き、尋いで女学部に到る、○
午后、教授会に山上御殿に赴く、○書状を角田松壽に送る、
○帝国大学及び古典攻究会より来状、○片山清太郎来る、○
齋藤精輔来る、○夜、有風、○「中学修身」五百部の奥附を
文学社に付与す、

廿五日、午前、晴天、浦谷熊吉、森良三郎、巢鴨の大工及び広
文堂員来る、○勉強、○「大日本仏教全書」を送来る、○午
后、講義に大学に赴く、○夜、伊藤吉之助来る、○山崎亀太
郎より来状、○不在中角田松壽来る、

廿六日、午前、雪霏々、満都白皚々、藤本眞光、辻本卯藏、宮
本和吉、島本愛之助来る、○茅原廉太郎及び白井成允より来
状、○午后、教科書会に文部省に赴く、○夜、澁澤男爵の招
待によつて帝国ホテルに赴き、Matthews 及び Gulick 二氏送
別の宴に列す、Guthrie、Harris 及び鎌田栄吉、江原素六、
團琢磨、添田壽一、松方巖、小崎弘道、綱島佳吉、浮田和民、
大倉喜八郎等と会見す、○白井成允より来状、

廿七日、午前、曇天、友枝高彦来る、○書状を白井成允、大森
房吉、山崎亀太郎に送る、○御殿場・東山旧宅地を開墾して桑
畑となすことを山崎亀太郎に通知す、○午后、景山泉造、明
治火災保険会社より来る、乃ち隣家を保険することを約束す、
○校正を広文堂に送る、○縫子、女中澄江を従へて買物に外

出す、○文科大学及び角田松壽等より来状、○夜、校正、廿八日、午前、曇天、帝国文学会より来状、○校正を広文堂に送る、○国書刊行会より「吾妻鏡」及び「雑芸叢書」を送来る、○伊藤吉之助、角田松壽来る、○午后、校正を広文堂に送る、○尾原亮太郎来る、○製本屋来る、○夜、哲学会に山上御殿に赴く、○藤樹書院、森村市左衛門及び林政徳より来状

三月

一日、午前、晴天、東京帝国大学記念日、森良三郎来る、○日清印刷より「東亜の光」(十の三)拾冊を送来る、○弘田長を小児科病室に訪ひ、益之進の診察を乞ふ、○「日本経済叢書」第九巻を送来る、○午后、今泉辰次郎、木場了本来る、○書状を松本文三郎、藤井健治郎、田所美治、阿部維巖に送る、○「新編修身」三千二百部「女子修身」三千〇四十部の奥附を金港堂に付与す、○校正、○夜、校正、○井上波野より来状、○校正を広文堂に送る、二日、午前、晴天、志水代次郎、贈物を携来る、○広文堂員来る、○黄鳥、庭園に鳴く、○校正を広文堂に送ること二回、○竹内康二より来状、○巡查竹本長吉の門札を正門に掲ぐ、○午后、角田松壽来る、○石橋智信、東亜協会々員となる、○夜、哲学談話会に大学に赴く、○小雨、○東亜協会及び帝国地方行政学会より来状、三日、午前、晴天、学習院に赴き、尋いで女学部へ赴く、○松本源太郎を部長室に訪ふ、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○丁酉倫理会及び他より来状、○「新編修身」二千五百部

の奥附を金港堂に付与す、○人物月旦、普通教育に出づ、○夜、Rudolf Eucken, The Meaning and Value of Life を読む、○教科書会より来状、○此日、学習院にて「国基」を贈る者あり、

四日、午前、晴天、在倫敦の高瀬武次郎より来状、○Rudolf Eucken, The Meaning and Value of Life を読む、○Sidney Gulick 及び婦一協会より来状、○勉強、○吉田雪子より縫子に来状、○午后、講義に大学に赴く、○縫子、笹川、得能及び伊澤宅に赴く、○松村介石より来状、○夜、吉田雪子来る、○長澤市藏の計報来る、

五日、午前、雨天、浦谷熊吉、森良三郎、島本愛之助及び植木屋来る、○午后、宮崎彦磨来る、縫子、すみれ会に赴く、○「哲学と宗教」を成瀬仁藏に送る、○書状を日本青年協会に送る、○金壹円五拾銭を帝国地方行政学会の大谷仁兵衛に送る、○大森房吉の通知によれば、安政二年十二月五日は一八五六年一月十二日に相当す、○夜、興学会に山上御殿に赴く、○帝国学士院より来状、

六日、午前、晴天、明治出版社より「大遺訓」を送来る、○大学の史料編纂掛より「大日本史料」二冊と「大日本古文書」三冊とを送来る、○益之進を拉して大学歯科に赴く、○「山草堂集」を読む、○有馬昌平来る、○書状を山田三良に送る、○午后、「山草堂集」を読む、○書状を速水滉に送る、○「女子修身」一千二百部及び「新編修身」一千部の奥附を金港堂に付与す、○宮崎彦磨来る、○運動に指ヶ谷町方面に赴く、

○不在中宮坂詰宗来る、○夜、書状を有馬昌平に送る、○「講習余筆」及び「九経談」等を読む、○有馬昌平より来状、○帰一協会より The Friendship of America for Japan を送る、○勉強、

七日、午前、晴天、枝元長夫、大野太衛及び明治火災保険会社より来状、○得能文来る、○尾原亮太郎、景山眞盛及び広文堂員来る、○丁酉倫理を読む、○午后、丁酉倫理会に学士会事務所に赴く、○不在中大村泰賢来る、○「実業修身」五千五百部の奥附を六盟館に付与す、○夜、八時頃帰宅、○有馬昌平より来状、○校正、○此日、野田五郎助来る、○雨、

八日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○高野山時報社より来状、○「日蓮主義に対する希望」法華に出づ、○益之進、大挙学科に赴く、○午后、縫子、吉田宅に赴く、○上村邦良来る、○校正を広文堂に送る、○藤本眞光、小笠原有鋭、角田松壽、小山鞆繪及び広文堂員来る、○夜、校正を広文堂に送る、○孔子祭典会より宋儒の画像を送来る、○此日、隣家の前に在る建物を取崩し、巢鴨に運去る、○此頃、第三号第四号長屋修繕悉皆成る、

九日、午前、晴天、Rudolf Eucken, The Meaning and Value of Life を読む、○阿部維巖より来状、○書状を鹿田静七に送る、○午后、引続き Eucken を読む、○広文堂より校正を送来る、○書状を丸善に送る、○病氣見舞として菓子壺箱を中島徳藏宅に送る、○阿部維巖より小包を送来る、○大橋秀治より来状、○弘道館本は採用校数二十、六盟館本は採用校

数二十七、○夜、書状を杉山直喜及び大橋季治に送る、○中島徳藏宅及び在倫敦上西半三郎より来状、引続き Eucken を読む、○吉田夫妻来る、

十日、午前、晴天、学習院に赴き、尋いで女学部に赴く、○電車中桑木巖翼に逢ふ、○縫子、益之進を拉して大学病院に赴く、○石川岩吉より来状、○「内閣文庫漢書目録」を送来る、○午后、片山清太郎来る、○「中学漢文」二千五百部の奥附を光風館に付与す、○多田義堂来る、Rudolf Eucken, The Meaning and Value of Life を読む、○丸善より Friedrich Hirth, The Ancient History of China 及 F. von Bernhardi, Germany and the Next War を送来る、○夜、広文堂員、校正を携来る、乃ち之に校正を付与す、○引続き Eucken を読む、○Leo Tolstoy, On Life を読む、○此日、速達郵便を友枝高彦に送る、

十一日、午前、晴天、枝元長夫及び其他より来状、○板垣退助より論文を送来る、○Leo Tolstoy, On Life を読む、○勉強、○大金来る、乃ち之に金七四、七六を支払ふ、之を内金五〇、〇〇と合すれば、金一二四、七六となる、○所得税金三三、一二及び府税市税金六、五五、合計金三九、七七を郵便局に納む、○植木屋来る、○午后、講義に大学に赴く、○「中学漢文」二千部の奥附を光風館に、「新編修身」二千五百部の奥附を金港堂に付与す、○岩下壯一来る、○夜、杉山直喜来る、○校正、○大橋秀治より来状、○書状を大橋秀治に送る、十二日、午前、晴天、竹内康二より来状、○森良三郎、島本愛

之助、大橋秀治及び広文堂員来る、○鹿田静七より「洛学編」「胡敬齋文集」及び「漢西域図考」を送来る、○植木屋来る、○午后、校正を広文堂に送る、○書状を小林照朗に送る、○縫子、益之進を拉して三井銀行に赴く、○「雲養集」を読む、○帝国学士院に赴く、○夜、広文堂より校正来る、○書状を井原豊作に送る、○雨、

十三日、午前、白雪霏々、満都玲瓏、Dewey and Tufts, Ethics 及び Höfding Ethik を読む、○後藤武夫来る、○文部省より「疑問仮名遣」と書類とを送来る、○午后、時局研究会に山上御殿に赴く、四十余名来る、曾我祐準、江木千之、全衷、秋月左都夫、宮地嚴夫、岡田良平、澤柳政太郎等と会见す、○夜、八時半頃帰宅、○松本文三郎、島本愛之助、大橋秀治及び文科大学より来状、○「中学修身」六百部及び「実業修身」三百部の奥附を文学社に付与す、○不在中広文堂員来る、

十四日、午前、晴天、高木武、高原孝、坂本喜治馬等来る、○大日本歌道奨励会より来状、○Höfding Ethik を読む、○午后、丁酉倫理会に帝国教育会に赴き、「個人主義に就いて」一場の講演をなす、聴衆約百名、○夜、学士会事務所に会食す、○雪、○成瀬仁藏より来状、○此日、河井太郎及び広文堂員来る、

十五日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○江木衷より「情声詩存」を送来る、○鳩山一郎及び法華会等より来状、○午后、木村泰賢、角田松壽、柴田俊二郎来る、○「中学修身」五千

部の奥附を弘道館に付与す、○山田源一郎及び乃木会より来状、○杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○「哲学と宗教」を木村泰賢に送る、○書状を杉山直喜に送る、○夜、校正、○川田正激より来状、

十六日、午前、晴天、川田正激より「欧米教育雑感」を送来る、○北原潮洲、竹本長吉及び明治火災保険会社員来る、○校正、○広文堂員来る、乃ち之に校正を付与す、○鳩山一郎より来状、○杉山直喜より速記を送来る、○午后、姉崎袖子、宮坂喆宗来る、○校正を広文堂に、書状を海老名彈正に送る、○速記を訂正す、○製本屋来る、○夜、速記者来る、乃ち談話を速記せしむ、○速記を訂正す、○板垣退助より書状と論文とを送来る、

十七日、午前、晴天、山崎亀太郎より来状、○女学部に赴く、○杉山直喜より速記を送来る、○午后、半晴、教授会に山上御殿に赴く、○速記を訂正す、○「実践修身」一百部の奥附を六盟館に付与す、○夜、速記を速達にて島本愛之助に送る、○「中学修身」六百部の奥附を文学社に付与す、○「欧米教育雑感」を読む、○書状を島本愛之助に送る、

十八日、午前、晴天、東京社より来状、○勉強、○鳩山秀夫より来状、○押田清子より縫子に來状、○益之進、大学病院に赴く、○多田義堂来る、○広文堂員、校正を携来る、○加藤克巳、山岡直記の書状を携来る、○午后、講義に大学に赴く、○黒田清市、大学に來談す、○湯本武比古より「倫理学要義」を送来る、○帝国学士院より来状、○「実践修身」一百部の

奥附を六盟館に付与す、○夜、板垣退助の「神と人道」を読む、○校正、○Mind. no. 93を送来る、○「欧米教育雑感」を読む、

十九日、午前、晴天、齋藤精輔、河井太郎、島本愛之助来る、○同文館より速記を送来る、○金拾円の為換入の書状を山崎亀太郎に送る、○広文堂員、校正を携来る、乃ち之に校正を付与す、○菊池大麓の為に金拾円を中村恭平に送る、○益之進、大学病院に赴く、○午后、神近市子、高橋穰来る、○「哲学と宗教」を高橋穰に付与す、○濱田捷彦及び国教学館より来状、○「新編修身」七千三百部、「中学修身」一百部、「女子修身」四千部の奥附を金港堂に付与す、○夜、古典攻究会の招待に上野精養軒に赴く、高木兼寛、川面凡児と会見す、○福原千代藏より来状、○此日、「大日本世界教宣明書」及び「古典講義録」を読む、

二十日、午前、晴天、校正、○「頼春水に関する談話」東京日々新聞に出づ、○午后、宮坂詰宗及びPrauer Jakob Hunziker (Missionar) 来る、○広文堂員来る、乃ち之に校正を付与す、○金原善三郎より書状と「松陰先生の少年時代」とを送来る、○原稿を島本愛之助に送る、○夜、哲学会に山上御殿に赴く、ダールマン、ストアとサンクヤに就いて講演す、○「中学修身」五千部の奥附を弘道館に付与す、○不在中角田松壽来^来身^身、廿一日、午前、晴天、帝国学士院より来状、○得能文、高木武、鈴木弘来る、○「仏教全書」及び「言継卿記」(第四)を送来る、○山本卯一、尾原亮太郎来る、○広文堂員来る、乃ち

之に校正を付与す、○書状を角田松壽及び金原善三郎に送る、○種田成次郎より来状、○石橋智信、使者を遣はし、書状を送来る、乃ち返事を使者に託す、○午后、半晴、伊藤吉之助、大島正徳来る、○書状を角田松壽に送る、○Transactions of the Asiatic Society of Japan (Vol. XIII, Part II)を送来る、○運動に音羽方面に出づ、○電車中島地大等と会見す、○校正、○不在中鳩山秀夫来る、○夜、校正、○校正を広文堂に送る、

廿二日、春季皇霊祭、午前、晴天、西正寺より来状、○祝儀の鰹節を石橋智信に送る、○多田義堂、西田敬止来る、○広文堂員、校正を携来る、乃ち之に校正を付与す、○校正、○文明協会より「犯罪心理学」と「學術的發見史」とを送来る、○「師範修身」三百部の奥附を晚成処に付与す、○午后、校正、○松原一義、「桜花百詠」を携来る、○日清印刷より口絵を送来る、○鳩山一郎より来状、○広文堂員来る、乃ち之に校正を付与す、○口絵解題を日清印刷に送る、○角田松壽来る、○夜、石橋智信の結婚披露の宴に上野精養軒に赴く、石橋思案、江越忠胤、川出麻須美、吉雄永壽等と会見す、○東京社及び婦一協会より来状、○此日、鈴木弘、須山啓之助来る、

廿三日、午前、雨天、棚橋一郎来る、○校正を広文堂に、書状を島本愛之助に送る、○縫子を三井銀行に遣はす、○広文堂員来る、乃ち之に写真及び肖像集を付与す、○午后、原稿を教育学術研究会に送る、○速記を訂正す、○伊藤吉之助来る、

○天霽る、○蓮沼門三より来状、○夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○棚橋絢子より来状、

廿四日、午前、晴天、島本愛之助、鳩山春子より来状、○校正、

○床屋に赴く、○山崎亀太郎より来状、○午后、齋藤精輔来る、○校正、○須山啓之助より来状、○「師範修身」三百部の奥附を晩成処に付与す、○「教界春秋」を草す、○「農業修身」二百部の奥附を金港堂に、「中学修身」五百部の奥附を弘道館に付与す、○広文堂員来る、乃ち之に校正を付与す、○夜、「教界春秋」を草し了りて之を日清印刷に送る、○校正、○書状を島本愛之助に送る、

○書状を島本愛之助に送る、

廿五日、晴天、杉山直喜より速記を送来る、○朝、武藤儀亮より来状、○「中学修身」五百五十部の奥附を文学社に付与す、○帝国大学より「大日本史料」(八の二)を送来る、○速記を訂正す、○運動に植物園方面に出づ、○天曇る、○宮本和吉来る、○正勝、中学二年を修了し、益之進、尋常四年を、高子、尋常二年を修了す、高子成績優良なり、○午后、曇天、

○廣文堂員来る、乃ち之に校正と原稿とを付与す、○議員選挙に区役所に赴く、○「実業修身」二千部の奥附を六盟館に付与す、○校正、○島本愛之助より来状、○雪、○夜、校正、

○「中学修身」五百部の奥附を文学社に付与す、○校正を広文堂に送る、○奥澤福太郎より来状、○書状を島本愛之助及び東洋大学に送る、

廿六日、午前、雨天、広文堂より校正来る、○東京高等女学校の卒業式に莅み、一場の講演をなす、○午后、雨歇む、○大

日本雄弁会より来状、○校正、○浦谷熊吉来る、○夜、広文堂員来る、○校正、○書状を枝元長夫に送る、○校正を広文堂に送る、○全国神職会より有賀博士の「立官問題の憲法上の研究」を送来る、

廿七日、午前、曇天、東亜協会より来状、○弘田長在職廿五年祝賀の為金五円を送る、○午后、多賀羅亭に昼餐をなす、○正則中学校に赴き、卒業式に莅み、一場の講演をなす、○夜、古典攻究会に東京工芸学校に赴き、「神道と国体」を演述す、秋山眞之、金原明善、田村虎藏、高橋静虎、高木兼寛、伊崎少将等会见す、○不在中神代種亮、太田資順の書状を携来る、○島本愛之助、伊藤吉之助、山室軍平、枝元長夫及び修養团より来状、○此日、隣家を引去る、

廿八日、午前、晴天、明治火災保険会社より火災保険證券を送来る、○蠣瀬彦藏、松原一義、麻生正藏来る、○広文堂員来る、○午后、相澤熙来る、○杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○校正、○夜、「日本百科大辞典」の相談会に山上御殿に赴く、○「新編修身」三千九百部及び「女子修身」七百部の奥附を金港堂に付与す、○「日本経済叢書」第十巻を送来る、

廿九日、午前、曇天、校正、○祝儀の鰹節(代価五円)を伊藤吉之助に送る、○午后、四宮兼之来る、○広文堂員、校正を携来る、○「中学漢文」七百五十部の奥附を光風館に付与す、○千賀貞子来る、○校正、○春枝、雙葉女学校補習科を卒業す、○夜、千賀貞子と共に晚餐を喫す、○「東亜の光」(十

の四)成る、○「大戦争の活教訓」東亜の光に出づ、○校正を広文堂に送る、

三十日、午前、晴天、島本愛之助、深作安文、浅石富人、齋藤精輔来る、○杉山直喜より速記を送来る、○山本犀藏及び其他より来状、○午后、堀田相爾来る、○速記を訂正す、○広文堂員、校正及び写真を携来る、○原稿を婦人画報編輯所に送る、○鳩山一郎より来状、○縫子、益之進と高子を拉して吉田及び姉崎宅に赴く、○夜、速記を訂正して之を太田資順に送る、○在巴里上西半三郎より来状、○校正、○書状を亀井千里及び東京社に送る、○此日、「哲学と宗教」を堀田相爾に付与す、

卅一日、午前、晴天、学習院女学部卒業式に赴く、鍋島侯爵夫人、伴正臣、神田乃武、中川謙二郎等と会見す、○不在中葉山萬次郎、湯目補隆来る、○奥澤福太郎、多田義堂、宮坂喆宗より来状、○午后、縫子を三井銀行に遣はす、○金百円を片山清太郎に支払ふ、○書状を帝国学士院及び川田正激に送る、○「東亜の光」を川田正激に送る、○運動に大塚方面に出づ、○夜、校正、○校正を広文堂に送る、○此日、帝国大学及び其他より来状、

四月

一日、午前、晴天、森良三郎、穂積陳重、角田松壽、岩橋遵成、加藤誠一来る、○校正を広文堂に送る、○午后、「女子修身」五百部の奥附を金港堂に付与す、○校正を広文堂に送る、○製本屋来る、○広文堂員来る、○縫子、春枝を拉して小川写

真館に赴く、○比村理子、御礼の為に来る、○校正、○夜、東京々都兩大学文科大学教授懇親会に借楽園に赴く、○不在中吉田雪子来る、

二日、午前、曇天、校正、浅石富人、湯目補隆来る、有故不遇、○校正を広文堂に送る、○縫子、益之進高子等を拉して三越の児童博覧会に赴く、○午后、史学会公開講演に大学に赴く、○縫子、すみれ会に深作安文宅に赴く、○宮坂喆宗来る、○「実業修身」一百部の奥附を六盟館に付与す、○夜、史学会部会に学士会事務所に赴く、○「実業修身」三百部の奥附を文学社に付与す、○広文堂より校正来る、○此日、民友社より赤川源一郎来る、

三日、神武天皇祭、二千五百年に相当す、午前、曇天、「神武天皇に関する談話」国民新聞に出づ、○川田正激、蓮沼門三、浅石富人より来状、○竹本長吉、手塚良道、白井成允来る、○同文館より校正と書状とを送来る、○中島力造より「新著梗概」を送来る、○午后、雨天、書状を松本文三郎に送る、○校正、○校正を広文堂に送る、○夜、伊藤吉之助結婚の披露に富士見軒に赴く、○原田秀泰及び東亜協会より来状、

四日、午前、曇天、橘惠勝、有馬祐政来る、○広文堂員、校正を携来る、○「実業修身」五百部の奥附を六盟館に、「師範修身」三百部の奥附を晚成処に送る、○校正、○午后、校正を広文堂に送る、○角田松壽、藤木眞光来る、○校正、○大野太衛、画幅を携来る、○益之進を拉して池袋に赴く、○夜、「実業修身」壹千壹百部の奥附を六盟館に付与す、○堀端某

来る、○校正を広文堂に送る、

五日、午前、晴天、片山清太郎、竹本長吉来る、○白井成允来りてカード式目録を作る、○縫子、益之進を拉して太田に赴く、○西田幾太郎より「思索と体験」を送来る、○史料展覽に山上御殿に赴く、○午后、二時頃帰宅、○不在中山本卯一及び広文堂員来る、○市原隆作、湯目補隆来る、○帝国学士院より来状、○夜、書状を帝国学士院、広文堂及び恩田弥三郎に送る、○東亜協会より来状、

六日、午前、初、曇天、後、晴天、文部省より来状、○「人格と修養」の序を草す、○縫子、春枝と共に三井銀行に赴く、○電話使用料金一六、五〇を郵便局に納む、○午后、加藤駒二、齋藤精輔来る、○広文堂より校正来る、○「女子修身」六百部及び「新編修身」一百部の奥附を金港堂に付与す、○「人格と修養」の序を広文堂に送る、○雑誌類を整理す、○夜、校正を広文堂に、書状を長井眞琴に送る、○書状を武藤儀亮に送る、

七日、午前、雨天、多田義堂、御礼の為に来る、○池田条次郎より来状、○竹本長吉、来る、○大町美種、井上波野と共に来る、○雑誌類を整理す、○大町美種、井上波野と昼餐を共にす、○午后、書状を榎本勝多、恩田與三郎及び河内堂に送る、○「新編修身」五百部の奥附を金港堂に付与す、○「社会と道徳」の原稿を整理す、○書状を内田銀藏及び小林文七に送る、○広文堂員、校正を携来る、○校正を広文堂員に付与す、○「個人主義を評す」中外日報に出づ、○夜、書状を

鈴木弘、岩崎太郎治及び川瀬一郎に送る、○文科大学より来状、○原稿を整理す、

八日、仏誕生会、午前、晴天、長井眞琴より原稿を送来る、○宮坂詰宗、島本愛之助、辻本卯藏、深作安文来る、○小山鞆繪、加藤文雄、東亜協会々員となる、○午后、書状を末松謙澄、吉田熊次、伊藤吉之助、島本愛之助、深作安文、宮坂詰宗、角田松壽に送る、○製本屋来る、○夜、興学会に山上御殿に赴く、○「個人主義を評す」中外日報に出づ、○書状を杉山直喜及び東京協同伝道委員に送る、○小林文七より来状、○「女子修身」一千部及び「新編倫理」五十部の奥附を金港堂に付与す、

九日、午前、晴天、古典攻究会及び丁酉倫理会より速記原稿を送来る、○浅石富人、桑田芳藏、田中義能来る、○光融館より「白隠和尚全集」を送来る、○「師範修身」二百部の奥附を晩成処に付与す、○「哲学と宗教」を田中義能に付与す、○春枝、吉田宅に赴く、○午后、書状を朝永三十郎に送る、○白井成允、甫守謹吾来る、○広文堂より校正来る、○吉田熊次より来状、○伊藤吉之助夫妻、宮坂詰宗、角田松壽来る、○揮毫、○土居稔実、小中村清象、東亜協会々員となる、○末松謙澄より来状、○浦谷熊吉来る、○The Philosophical Reviewを送来る、○夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○文部省及び其他より来状、

十日、午前、晴天、棚橋絢子来る、○加藤駒二より来状、○広文堂より校正来る、○女中澄江を文部省に遣はす、○揮毫、

○宮坂詰宗、深作安文より来状、○午后、揮毫、○縫子、春枝と益之進と共に大学の競漕に墨陀川に赴く、○高子、女中松枝と共に植物園に赴く、○島本愛之助及び新井喜作より来状、○校正、○広文堂員、校正を携来る、○校正を広文堂員に付与す、○「個人主義を評す」中外日報に出づ、○「女子修身」壹百拾部の奥附を金港堂に付与す、○堀端純太郎来る、○浦谷熊吉、「修身教科書備考」携来る、

十一日、午前、曇天、昭憲皇太后崩御後満一年経過、○田中義能及び岩崎任利より来状、○杉山直喜より速記を送来る、○鈴木郁翁、加藤岩造及び広文堂員来る、○速記を訂正す、○金四拾九銭を光融館に、送る、○給水工費金貳拾銭を郵便局に納む、○午后、小雨、速記を訂正す、○「女子修身」三百部及び「新編修身」五百部の奥附を金港堂に付与す、○広文堂員、校正を携来る、○東京社より使者来る、乃ち之に春枝の写真を付与す、○「象山全集」を検閲す、○吉田雪子来る、○奈良天理教より来状、○「個人主義を評す」中外日報に出づ、○夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○校正、○此日、諒闇了る、

十二日、午前、曇天、講義に大学に赴く、○四宮兼之より来状、○広文堂員、校正を携来る、○校正を広文堂員に付与す、○小雨、○午后、瀧田哲太郎、山本卯一来る、○校正を広文堂に送る、○齋藤正雄来る、○夜、帝国学士院に赴く、○文科大学より来状、○速記を訂正す、

十三日、午前、晴天、樋口秀雄、小林文七及び国民美術協会よ

り来状、○靈代奉遷式に賢所に赴く、飯島魁、久保田讓、後藤新平、小牧昌業、木場貞長、田中芳男、和田垣謙三等と会見す、○不在中大島正徳、河井太郎及其他来訪者あり、○広文堂より校正を送来る、○鈴木弘、菓子壱箱を携来る、○午后、広文堂員来る、乃ち之に校正を付与す、○速記を訂正す、○齋藤精輔来る、○縫子、春枝と植物園に赴く、○大島正徳、伊藤理基来る、○「個人主義を評す」中外日報に出づ、○夜、偕楽園に赴き、吉田熊次、深作安文、島本愛之助、宮坂詰宗、浦谷熊吉、伊藤吉之助、角田松壽と晚餐を共にす、○今井久藏及び名教中学より来状、○此頃、金允植に関する談話三新聞に出づ、

十四日、午前、晴天、学習院に赴き、尋いで女学部に赴く、皇后陛下の賜物あり、○「中学修身」壹百部の奥附を文学社に付与す、○広文堂より校正を送来る、○大槻文彦より「曆象新書」を送来る、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○春山作樹来る、○大隈伯爵より来状、○「女子修身」二百部の奥附を金港堂に、「中学修身」五百部の奥附を弘道館に付与す、修養団より来状、○校正を広文堂に送る、○夜、校正を広文堂に、書状を竹内康二及び恩田與三郎に送る、○研究、

十五日、午前、晴天、Clay MacCauley 及び The American-Japanese Problem as a Race Question を送来る、○大嶋正徳、使者を遣はす、乃ち之に名簿を付与す、○松浦清海来る、○勉強、○縫子、歯科医に赴く、○竹内康二来る、乃ち之に「曆象新書」三巻を付与す、○午后、曇天、講義に大学に赴く、

○宮坂詰宗来る、○廣池千九郎より「支那法制史本論」を送る、○「中学漢文」三百部の奥附を光風館に付与す、○棚橋絢子、使者を遣はし、「首尾吟」及び「修身実験録」を送る、乃ち之に「武教本論」「武教小学」及び「武教講録」を付与す、○在職二十五年祝賀会發起人総代及び深作安文等より来状、○文部省より教科書類を送来る、○夜、速記を訂正す、十六日、午前、晴天、森良三郎、櫻井錠二、藤本眞光、河井太郎、今井久藏、島本愛之助来る、○帝国学士院より使者来る、○博文館より野崎富三郎来る、乃ち之に春枝の写真を付与す、○速記を訂正す、○午后、下田次郎来る、○速記を訂正す、○奥澤福太郎来る、乃ち之に原稿を付与す、○杉浦重剛還暦祝賀会に植物園に赴く、○奥澤福太郎、東亜協会々員となる、○夜、速記を訂正す、○佐々政徳（やまと新聞記者）来る、○広文堂より校正を送来る、○黒田侯爵より招待状来る、○此日、「国民教育と国家主義」小学校に出づ、十七日、午前、晴天、團琢磨及び螺山会より来状、○佐藤鐵太郎より「日本民族の自覚」二部を送来る、○森良三郎、鈴木弘来る、○山崎亀太郎、及び帰一協会より来状、○「即身成仏義」及び「本朝高僧伝」を読む、○文明協会より「人物之要素」及び「風土心理学」を送来る、○午后、「明治諸宗綱要」を読む、○「弘法大師開創一千一百年記念講演会に神田青年会館に赴く、宇野重喜、高楠順次郎等と会見す、○夜、日本学会に山上御殿に赴く、○不在中吉田熊次夫妻来る、○帝国学士院、文科大学等より来状、○雨、

十八日、午前、雨天、宮坂詰宗より来状、○書状を式部職に送る、○慈恵医学校に赴き、神道に関する一場の講演をなす、○石川詢、佐藤孝郷、今裕と会見す、○青山の三つ星にて昼餐を喫す、○午后、名教中学開校式に莅み、一場の講演をなす、○大木遠吉、太田保一郎、等と名教中学に会見す、○不在中伯爵松平直亮来る、○東京社より来状、○夜、松本成美来る、○通知人名の取調をなす、十九日、午前、雨天、島本愛之助、宮坂詰宗、及び帰一協会より来状、○広文堂より校正を送来る、○講義に大学に赴く、○午后、大橋秀治、角田松壽来る、○藤本眞光、御礼の為に来る、○瀧田哲太郎来る、乃ち談話を筆記せしむ、○校正、○松浦一より来状、○夜、校正、○八代海相より招待状来る、○日本弘道会より来状、二十日、午前、曇天、島本愛之助及び大槻文彦より来状、○為換入の書状を山崎亀太郎及び服部松五郎に送る、○書状を大槻文彦及び五二会に送る、○亀谷聖馨、御礼の為に来る、○校正、○午后、校正、○広文堂員来る、乃ち之に校正を付与す、○書状を江木衷、橘惠勝、新井喜作に送る、○宮内省より観桜会の招待状来る、○小山軀繪、全良子来る、○吉村死灰来る、有故不遇、○富山房より使者来る、乃ち之に原稿を付与す、○夜、書状を神保小虎及び帰一協会に送る、○帝国学士院及び孔子祭典会より来状、廿一日、午前、曇天、松浦伯爵より来状、○学習院に赴き、尋いで女学部に来る、○女学部より卒業生の写真を受取る、○不

在中村久四郎来る、○Joseph Dahmann による Die Thomas-Legende を送る、○独逸の Archiv für systematische Philosophie 二冊を送る、○「大日本仏教全書」を送る、○神保小虎より来状、○「新編修身」一千部の奥附を金港堂に付与す、○午后、上原才一郎及び在米国今岡信一良より来状、○佐藤孝郷、御礼の為に来る、○宮坂喆宗及び製本屋来る、○「中学修身」五百部の奥附を弘道館に、「女子修身」三百部の奥附を金港堂に付与す、○書状を中村久四郎に送る、○夜、宮坂喆宗来る、○勉強、

廿二日、午前、雨天、文科大学学友会、中央報徳会、及び Joseph Dahmann より来状、○勉強、○井上波野より縫子に來状、○縫子、齒科医に赴く、○書状を螺山会及び中央報徳会に送る、○午后、岡村如山来る、○赤司繁太郎より来状、○講義に大学に赴く、○中島徳来る、○Carnegie Endowment for International Peace 及び他の印刷物二三冊を送る、○小山東助来る、○帝国学士院より来状、○夜、吉田修夫来る、○「教界春秋」を草す、

廿三日、午前、曇天、孔子祭典会より来状、○岡村如山、小野藍次郎来る、○六盟館より小包二箇を送る、○宮本和吉、島本愛之助来る、○金貳円を中原貞七の為に、金参円を辰野金吾の為に、金壹円を中野初子の為に發送す、○女中松枝を大学に遣はす、○午后、山崎亀太郎、太田秀穂及び大日本雄弁会より来状、○「教界春秋」を草して之を日清印刷に送る、○湯本武比古より来状、○書状を吉村死灰に送る、○夜、八

代海相の招待に水交社に赴く、鈴木次官、肝付中将等と会見す、○深谷泰藏より来状、○広文堂より校正来る、○不在中宮坂喆宗来る、○此日、「実業修身」一百部の奥附を文学社に付与す、○「山草堂集」を読む、

廿四日、午前、晴天、澁澤栄一及び修養団より来状、○角田松壽、松崎直子来る、○松崎直子に一家の写真を付与す、○磯谷商店員来りて肖像を植物園に運び去る、○校正を広文堂に送る、○午后、植物園に於て在職二十五年記念祝賀会を挙行す、来会者約二百五十名、一木文相代理、山川総長、松本文三郎、嘉納校長代理、小柳司氣太、中島利一郎、土田誠一の祝詞あり、食卓に於て演尾男爵及び三宅雄二郎の演説あり、海老名彈正、土井林吉、有馬祐政、井上健児、富田順吉、宮本寛、峯堅雅、塚原政次、藤井健治郎より祝電来る、塩谷温、亀谷聖馨、小杉熙、中島利一郎、大野太衛より賀詩を寄来る、○内ヶ崎作三郎より来状、○深作安文、宮坂喆宗、鳥居龍藏来る、○夜、帝国学士院及び根岸和一郎より来状、○谷本富より祝電来る、○此日、広文堂員来る、

廿五日、午前、晴天、佐々木信綱、橘惠勝より来状、○井上俊雄より縫子に來状、○研究、○森良三郎来る、○在職二十五年祝賀会の事、各新聞に出づ、○阿部維巖より来状、○為換入の書状を鹿田静七に送る、○午后、孔子祭典会に法科大学に赴き、「孔子晩年の思想」を講演す、○哲学会に出づ、○夜、カントアーベンドを開催す、来会者約三十名、○秋月胤継、豊田臻、及び帰一協会より来状、○此日、日清印刷より「東

亜の光」口絵来る、○此頃、「日本経済叢書」第十一巻を送来る、

廿六日、午前、半晴、講義に大学に赴く、○高島平三郎より来状、○「古典講義録」三冊を送来る、○「神道と国体」古典講義録に出づ、○文科大学より在職二十五年祝賀会書類を送来る、○龍山義亮より来状、○午后、黒田侯爵の結婚披露の宴に華族会館に赴く、○「実業修身」二百部の奥附を六盟館に、「勅語衍義」一千部の奥附を成美堂に付与す、○同文館より使者来る、○文科大学及其他より来状、○日本弘道会及び平塚唯鳩より祝電来る、○夜、口絵解題を速達にて日清印刷に送る、○富田順吉より「福岡市案内」と書状とを送来る、○書状を塩谷温、大野太衛、小杉熙に送る、○矢作栄藏及其他より来状、

廿七日、午前、小雨、大橋秀治より来状、○六盟館の「実業修身」五十三校に採用せらる、○書状を龍山義亮、阿部維巖、豊田臻、佐々木信綱及び丸善洋書店に送る、○縫子、買物に外出す、○齋藤精輔来る、○富岡永馬より来状、○「孔子晩年の思想」中央新聞に出づ、○午后、「大嘗会と歴代御田」やまと新聞及び伊勢新聞等に出づ、○礼状を平塚唯鳩、有馬祐政、藤井健治郎、土井林吉、海老名彈正、塚原政次、影山勝、峯堅雅、及び日本弘道会に送る、○玉利喜造、朝永三十郎来る、○夜、朝永三十郎と晚餐を共にす、○書状を谷本富、矢作栄藏、富岡永馬に送る、○「弘法大師の能力」中外日報に出づ、○「日本大藏経」を送来る、

廿八日、午前、雨天、柳谷謙太郎、山崎亀太郎、文科大学及び丸善等より来状、○祝儀の鯉節を瀧澤栄一に送る、○書状を税務署及び山崎亀太郎、内ヶ寄作三郎、太田秀穂に送る、○「いきものを愛する優美な心」婦人画報に出づ、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○祝賀会の写真二枚を受取る、○「孔子晩年の思想」中央新聞に出づ、○夜、小中村清象来る、○「山草堂集」及び張子の「正蒙」を読む、○文科大学より来状、○書状を中島愼一に送る、

廿九日、午前、晴天、小野藍次郎より来状、○平塚唯鳩来る、○三浦熊吉より鮮魚壺籠を送来る、○西晋一郎より「倫理哲学講話」を送来る、○張子の「正蒙」を読む、○縫子、横浜押田宅に赴く、○書状を高島平三郎、西田幾太郎、西晋一郎に送る、○保坂胖治より来状、○丸善より Kabir's Poems, translated by Rabindranath Tagore を送来る、○広文堂員、校正を携来る、○校正を広文堂に付与す、○加藤弘之博士の八十の賀の為に金五円を送る、○午后、書状を建部遯吾、松本文三郎、小柳司氣太、根岸和一郎に送る、○姉崎袖子、全益子、児女を拉して来る、井上健児より小包を送来る、○御礼の為に瀨尾男爵邸に赴く、○夜、張子の「正蒙」及び「山草堂集」を読む、○書状を辻本卯藏に送る、○此日、竹内康二、写物を携来る、

三十日、午前、晴天、岩橋遵成、酒巻壽子来る、○縫子を三井銀行に遣はす、○益之進、春枝と共に大学齒科に赴く、○「哲学と宗教」を酒巻壽子に付与す、○島本愛之助来る、○広文

堂員、校正を携来る、○校正を広文堂員に付与す、○午后、帝国学士院より来状、○小野秀雄、浅石富人来る、○為換入の書状を列聖全集編纂会主幹中塚栄次郎に送る、○Rudolf Eucken, The Meaning and Value of Life を読む、○「東亜の光」(第十巻の第五号)来る、○大学より論文五冊を送来る、○夜、「国民道德概論」二百部の奥附を三省堂に付与す、○蓮沼門三より来状、○学生の論文を読む、○書状を帰一協会、日本弘道会、及び柳谷謙太郎に送る、○書状を三浦熊吉に送る、

五月

一日、午前、晴天、森良三郎、宮坂喆宗来る、○山崎常磐より来状、○明治神宮社殿創立社格を官幣大社に列せらるる旨被仰出、○委員会に帝国学士院に赴く、○午后、大倉廣三郎及び白井成允来る、○日本弘道会より来状、○書状を丸善洋書店に送る、○朝永三十郎より来状、○張子の「正蒙」を読む、○夜、張子の「正蒙」を読む、○学生の論文を読む、○新清次郎、三宅磐及び櫻井錠二より来状、

二日、午前、曇天、坂本嘉治馬来る、○中島慎一及び泰「秦」政治郎より来状、○勉強、○午后、小雨、勉強、○寛克彦、「続古神道大義」を携来る、○加藤弘之より「責任論」を送来る、○角田松壽来る、○夜、張子の「正蒙」を読む、○学生生の論文を読む、○勉強、○此日、縫子、吉田及び姉崎宅に赴く、

三日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○「師範修身」二百五十部の奥附を晩成処に付与す、○午后、白石實三来る、

○二時頃自宅を出でて横浜に赴き、先づ西戸部の押田宅を訪ひ、清子及び初孫の勇雄に逢ふ、○夕景銀行会議所に赴き、阪谷芳郎、中村進午、小山東助、三宅磐、美澤進、長與程三、渡辺文七、松田源重吉野作藏等と会见す、○夜、是等の人と共に晚餐を喫す、○常設館に於て「大戦争と国民の覚悟」を演述す、聴衆約五千人、横浜易新報二十五年祝賀の為也、○夜半帰宅、○不在中鈴木弘来る、○反省社より書状と御礼とを送来る、○広文堂員来る、○「人格と修養」一千五百部の奥附を広文堂に付与す、○富山房より校正を送来る、○清子より縫子に來状、

四日、午前、晴天、徳富猪一郎より来状、○校正を富山房に送る、○竹本長吉来る、○午后、原稿を広文堂に送る、○書状を角田松壽及び坂本嘉治馬に送る、○午后、石橋智信、若木貞一、島本愛之助、角田松壽来る、○大野太衛、論文を携来る、○夜、書状を小野藍次郎及び丸善洋書店に送る、○Rudolf Eucken, The Meaning and Value of Life を読む、○文科大学及び玉利喜造より来状、○此頃、「タゴールとウパニシャッド」中央公論に出づ、

五日、午前、晴天、学習院に赴く、○御礼の為に文部省に赴く、○三井銀行に赴く、○不在中樋口秀雄来る、○大野太衛、山口察常、及び日本弘道会より来状、○文科大学より論文二篇を送来る、○帰一協会より「時局論叢」を送来る、○書状を山口察常及び日本弘道会に送る、○午后、Eucken, The Meaning and Value of Life を読む、○独逸から Viertes

Jahrbuch der Schopenhauer-Gesellschaftを送来る、○夜、引続きEuckenを読む、○勉強、○帝国学士院より来状、○宮坂喆宗来る、祝辞を之に付与す、

六日、午前、晴天、近重眞澄より「禅学真髓」を、富山房より「陽明哲学」を送来る、○小野藍次郎来る、○勉強、○森良三郎来る、○午后、鈴木郁翁来る、○講義に大学に赴く、○不在中西田敬止、御礼の為に来る、○丸善及び他より来状、○富山房より校正来る、○校正を富山房に送る、○小西九兵衛より小包を送来る、○夜、書状を坂本嘉治馬に、東亜協会案内状を尾原亮太郎、伊崎良熙、秋山眞之、東敬治、井上泰岳、多田義堂、山田倉太郎、酒巻壽子、に送る、○張子の「正蒙」を読む、○此日、我政府、支那に対し、最後通牒を發す、七日、午前、晴天、武藤儀亮、山口察常より来状、○書状を黒木安雄、小林正策及び松浦伯爵家に送る、○浦谷熊吉、小野秀雄、淺石富人来る、○弘道館出版の「中学修身」三十二校に採用せらる、○三井銀行及び鍋島侯爵祝賀会より来状、○張子の「正蒙」を読む、○島本愛之助、竹本長吉来る、○午后、常盤大定より来状、○張子の「正蒙」を読む、○「支那近世哲学史」及び学生の卒業論文を読む、○仏国よりGerman Atrocities 及び Who wanted War?を送来る、○東條写真館より写真拾八枚を送来る、○運動に小石川台町方面に出づ、○夜、学生の論文を読む、○「二程全書」を読む、八日、午前、曇天、書状を秦政治郎、深谷泰藏及び丸善洋書店に送る、○吉田雪子来る、○張子の「正蒙」及び「古今神道

篇」を読む、○文科大学の使者来る、乃ち之に論文を付与す、○午后、「古今神道篇」を読む、○加藤弘之より来状、○富山房より校正を送来る、○校正を日清印刷に送る、○大金来る、○縫子、春枝及び高子と共に家庭博覽会に上野に赴く、○川島丈内より賀詩を送来る、○「古神道大義」を読む、○運動に植物園方面に出づ、○夜、中原貞七より来状、○広文堂員、「人格と修養」を携来る、○「人格と修養」成る、○書状を島本愛之助に送る、

九日、午前、曇天、石橋智信及び村上專精より来状、○竹本長吉来る、○研究、○「古神道大義」を読む、○午后、東亜協会第十七回講演大会に大学に赴く、○来会者約五百名、○三宅正枝、大学に來訪す、○「神道と世界宗教」を東亜協会に演述す、○夜、東亜協会懇親会を山上御殿に開く、来会者約三十名、○不在中竹本長吉及び大金来る、○保坂勝治より来状、○丸善より、Jowett, The Dialogue of Plato, Jerusalem, Introduction to Philosophy, Russell, Scientific method of Philosophy, Brinkley, History of the Japanese Peopleを送来る、十日、午前、曇天、講義に大学に赴く、○長井沔より来状、○長井沔、東亜協会々員となる、○支那我要求全部承諾の報あり、○午后、製本屋来る、○「国民新聞創刊二十五年」の記念祝賀の招待に上野精養軒に赴く、○文科大学より来状、○土田誠一来る、○夜、書状を長井沔及び島本愛之助に送る、○学生の論文を読む、

十一、午前、雨天、竹本長吉来る、○学生の論文を読む、○書

状を吉田熊次及び其他に送る、○日清印刷より校正来る、○午后、校正を日清印刷に送る、○Rudolf Eucken, The Meaning and Value of Lifeを読む、○角田松壽来る、○文部省より来状、○「実業修身」二百部の奥附を六盟館に付与す、○夜、Eucken, The Meaning and Value of Life及びErkennen und Lebenを読む、○書状を帝国学士院に送る、○此日、御殿場の番人より薇と独活とを送来る、

十二日、午前、晴天、六盟館より小包を送来る、○学習院に赴き、尋いで女学部に来る、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○雷雨一過、○不在中林勃爾来る、○小山東助、三宅磐来る、○Rudolf Eucken, Erkennen und Lebenを読む、○製本屋来る、○夜、金港堂より来状、○書状を鈴木弘に送る、○金港堂の「中学修身」六十校に採用せらる、○「店員及び職工に必要な信念の養成法」実業の日本に出づ、○勉強、○此日、薇と独活とを吉田宅に送る、

十三日、午前、晴天、長井沚より書状と原稿とを送来る、○勉強、○坪井九馬三及び久保源一より来状、○午后、講義に大学に赴く、○神道書目をダールマンに付与す、○ダールマン、Wieger, Le Taoisme, tome Iを携来りて之を示す、○浦谷熊吉来る、○夜、学生の論文を読む、○張子の「正蒙」を読む、十四日、午前、晴天、帝国学士院、富田貞松及び島本愛之助より来状、○森良三郎、林勃爾、大橋秀治、工藤誠一、加藤常助、浅石富人来る、○帝国学士院より使者来る、乃ち之に金貳円を付与す、遠藤利貞の香華料なり、○帝国学士院より「九

州帝国大学一覽」を送来る、○張子の「正蒙」を読む、○婦一協会、山口龍藏及び及び竹内康二より来状、○午后、書状を川島丈内に送る、○佐々木吉三郎より来状、○書状と古典講義録とを佐々木吉三郎に送る、○縫子、買物に外出す、○女中澄江を東海銀行に遣はす、○「哲学と宗教」(再版)壹百枚の奥附を弘道館に付与す、○在職二十五年の祝賀会の礼状を認む、○張子の「正蒙」を読む、○文科大学より論文を送来る、○夜、学生の論文を読む、○書状を伊藤吉之助に送る、○張子の「正蒙」を読む、○鈴木弘来る、

十五日、午前、晴天、東敬治来る、○縫子、益之進を拉して御殿場に赴く、○光岡安藝及びやまと新聞より原稿を送来る、○富田貞松より真綿を送来る、○哲学談話会及び其他より来状、○書状を光岡安藝に、書状と原稿とをやまと新聞社に送る、○伊藤吉之助来る、○電報を御殿場の番人に送る、○丸善より使者来る、○丁西倫理会より来状、○島本愛之助来る、○書斎の整理をなす、○午后、学生の論文を読む、○竹本長吉、宮坂喆宗来る、○八木光貫及び巢鴨村役場より来状、○中島徳藏より鶴の子餅と鯉節とを送来る、○夜、宮坂喆宗の原稿を訂正し、賀詩を整理す、

十六日、午前、晴天、櫻村才助より来状、○鈴木弘、宮本知道来る、○慈恵病院に芝愛宕に赴き、「孔子」に就き、一場の講演をなす、○神田多賀羅亭に昼食す、○午后、曇天、鍋島侯爵古稀寿宴に上野精養軒に赴く、○陽明学会に麟祥院に赴く、○不在中木村泰賢来る、○城生菊四郎より来状、○宮坂

詰宗来る、○読売の女記者、菓子壺箱を携来る、○「岡山県人物伝」を読む、○大倉廣三郎来る、○「中学修身」一百部の奥附を弘道館に付与す、○夜、八時頃、縫子、益之進と共に御殿場より帰来る、○「伝習録」を読む、○広文堂員、「人格と修養」拾部を携来る、○此日、春枝、高子と共に横浜押田宅に赴く、○宮本知道より来状、

十七日、午前、雨天、三時半頃近火あり、来訪者、浦谷熊吉、濱尾新、加藤玄智等あり、後齋る、○講義に大学に赴く、○辻本卯藏、枘田秀乗、岡村庄三郎より来状、○奥澤福太郎来る、○文明協会より「実証道德」と「種の起源の基礎」とを、吉田熊次より「現今教育思潮批判」を送来る、○午后、書齋の整理をなす、○中嶋徳藏妻来る、○徳富猪一郎、島本愛之助より来状、○書状を角田松壽及び杉山直喜に送る、○三上義夫の論文を島本愛之助に送る、○田租、三九五を巢鴨村役場に送る、○土岐善磨来る、○夜、辻本卯藏の招待に上野精養軒に赴く、○文科大学より論文を送来る、○「伝習録」を読む、

十八日、午前、晴天、秦政治郎及び村上周藏より来状、○秦政治郎より海酸漿を送来る、○森良三郎及び河井太郎来る、○書状を枘村才助、島本愛之助、枘田秀乗、岡村庄三郎に送る、○角田松壽来る、○午后、原稿を角田松壽に、書状を島本愛之助に送る、○杉山直記来る、乃ち談話を速記せしむ、○大野太衛、中野江漢、姉崎益子来る、○学生の論文を読む、○林勃爾、宮坂詰宗より来状、○夜、哲学談話会に山上御殿に

赴く、一場の講演をなす、

十九日、午前、曇天、有賀長雄より来状、○学習院に赴き、尋いで女学部に至る、○巢鴨村役場及び統合事務所より来状、○西田政造の計報来る、○文科大学より使者来る、乃ち之に論文を付与す、○杉山直喜より速記を送来る、○午后、原稿を島本愛之助に、書状を統合事務所に送る、○竹本長吉来る、○御礼の為に濱尾男爵邸に赴く、Eucken, Leben und Erkennenを読む、○宗教大学より来状、○夜、引続きEuckenを読む、

二十日、午前、曇天、実業之日本社より来状、○勉強、○史料編纂より「大日本古文書」一冊を送来る、○御殿場の番人より縫子に来状、○午后、講義に大学に赴く、○弘道館より来状、○「国力発展と神道」鷲城新聞に出づ、○角田松壽及び製本屋来る、○夜、深作安文より来状、○同文館の原稿を訂正す、○「中等教育に関する私見」新時代に出づ、

廿一日、午前、曇天、林勃爾、竹本長吉、河井太郎、浅石富人、一宮弘人妻、伊藤吉之助来る、○「伝習録」を読む、○午后、学生の論文を読む、○「大札と国民教育」和歌山新報に、「国力発展と神道」秋田魁新聞に出づ、○一宮弘人より使者来る、○写真一枚を井上健児に送る、○縫子、「人格と修養」を携へて吉田宅に赴く、○書状を八木光貫及び山崎亀太郎に送る、○齋藤精輔来る、○帝国学士院より来状、○夜、学生の論文を読む、○宮坂詰宗来る、○書状を坂本嘉治馬、辻本卯藏、大倉廣三郎に送る、○「伝習録」を読む、

廿二日、午前、曇天、摂氏十五度、冷気を覚ゆ、○帰一協会、

新清次郎及び三浦七右衛門より来状、○書状を大倉廣三郎及び秦政治郎に送る、○深作安文及び島本愛之助来る、○多田義堂より来状、○「伝習録」を読む、○午后、学生の論文を読む、○「伝習録」を読む、○菊池男爵祝賀会に植物園に赴く、巨智部忠承、富水寛人^{ママ}等と会見す、○夜、学生の論文を読み、「伝習録」を読む、

廿三日、午前、雨天、広文堂より来状、○同文館の原稿を訂正す、○学生の論文を読む、○九ノ里虎之助来る、○松井錦橘、使者を遣はし、書状を送来る、○午后、「日本経済叢書」第十二巻を送来る、○「伝習録」を読み、尋いで学生の論文を読む、○竹本長吉来る、○書状を森良三郎に送る、○夜、学生の論文を読む、○富山房より来状、

廿四日、午前、晴天、保坂勝治及び松浦邸より来状、○講義に大学に赴く、○文科大学より使者来る、乃ち之に論文を付与す、○女中松枝を大学会計課に遣はす、○一宮弘人、隣家に引越来る、○丸善洋書店より来状、○華山会より「華山全集」第二巻を送来る、○丸善より、Tagore, The King of the Dark Chamberを送来る、○午后、松浦邸より「山鹿素行先生精神訓」を送来る、○「教界春秋」を草す、○佐藤進一、森良三郎、角田松壽来る、○給水工費金四、九一〇を郵便局に支払ふ、○第二号修繕費金三、五、七五〇を大金に支払ふ、○「曆象新書」の小包と書状とを大槻文彦に送る、○丸善より来状、○文科大学及び西正寺より来状、○夜、土田誠一來る、○文科大学より来状、○此日より祝賀会の礼状を発送す、

廿五日、午前、晴天、東京音楽学校より来状、○帰一協会及び本多日生より印刷物を送来る、○「教界春秋」を草す、○速達にて原稿を日清印刷に送る、○森良三郎及び片山清太郎来る、○学生の論文を読む、○大島健一より来状、○午后、在仏国の藤井慶乗より書状と「楚囚艱難録」を送来る、○姉崎宅を訪ひカラメル壺箱を送る、○吉田宅を訪ひ、帰途大塚方面を散歩して還る、○山崎亀太郎及び櫻井女塾より来状、○「楚囚艱難録」を読む、○夜、学生の論文を読む、

廿六日、午前、晴天、文科大学、島本愛之助、紀平正美、大槻文彦より来状、○学習院に赴く、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○金港堂及び其他より来状、○不在中伊藤吉之助来る、○宮坂喆宗来る、○夜、宮坂喆宗、伊藤吉之助来る、○書状を尾崎吉三郎、島本愛之助及び西田正作に送る、○文科大学より使者来る、乃ち之に椎尾辨匡の論文を付与す、○此日、祝賀会の礼状を発送し了る、

廿七日、午前、晴天、勉強、○有賀長雄より来状、○森良三郎来る、○隣家の変更届済む、○午后、小石川区教育会より来状、○講義に大学に赴く、○国書刊行会より「武術叢書」を送来る、○夜、前川文栄閣、吉田熊次夫妻来る、

廿八日、午前、晴天、床屋に赴く、○啓成社より「中興鑑言」二冊を送来る、○丸善よりMindを送来る、○書状を福島徳平及び御園生金三郎に送る、○浅石富人来る、有故不遇、○鈴木宗忠、藤眞亮、常盤大定来る、○午后、常磐会に水交社に赴く、細川十洲と会見す、○時局研究会に山上御殿に赴く、

○夜、研究会を継続す、高木兼寛、江木千之、三好愛吉等と
会見す、○千葉鑛藏、鈴木宗忠、加藤駒二、山崎亀太郎、及
び文科大学等より来状、

廿九日、午前、晴天、峯堅雅、菅沼性藏、上村彦之丞、密門有
範等より来状、○東亜協会より報告書来る、○書状を天野智
文、加藤駒二及び文科大学等に送る、○為換入の書状を華山
会に田原に送る、○午后、尾張徳川家の絵巻物を大学本部に
観る、○西田政造の著書を読む、○吉田雪子、微恙あり、○
縫子、吉田宅に赴く、○夜、心理学会に山上御殿に赴く、○
哲学会、小池橋太郎及び寺原高助より来状、

三十日、午前、晴天、林麿臣来る、有故不遇、○島本愛之助来
る、○原稿入りの小包を西田政造嗣子西田正作に送る、○書
状を寺原高助に送る、○飯田義一より「勇猛精進」三冊を送
来る、○縫子、齒科医に赴く、○書状を島本愛之助及び丸善
洋書店に送る、○飯田義一より来状、○午后、哲学会に大学
に赴く、○角田松壽、大学に来訪す、○夜、山上御殿に会食
す、○金港堂より印税金三三、六〇を送来る、○「東亜の光」
(十の六) 成る、○島本愛之助より来状、

卅一日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○水道使用料金拾壹
円零八錢を郵便局に納む、○深作安文より来状、○「大日本
仏教全書」を送来る、○午后、木村泰賢、伊藤吉之助来る、
○女中澄江を東海銀行に遣はす、○文科大学より来状、○竹
本長吉来る、○夜、書状を飯田義一、本多日生及び榎本勝多
に送る、

六月

一日、午前、雨天、哲学研究室に赴き、哲学科の口述試験を行
ふ、○哲学会より来状、○午后、雨歇む、○土岐善麿、吉田
雪子来る、○「婦人の通弊」愛国婦人に出づ、○宮坂詰宗よ
り来状、○原稿を整理す、○夜、引続き原稿を整理す、○案
内状を認む、○此日、不在中森良三郎来る、

二日、午前、曇天、印度哲学の口述試験に大学に赴く、○「朱
子哲学」参百部の奥附を富山房に付与す、○島本愛之助より
来状、○午后、半晴、案内状を上田萬年、芳賀矢一、建部遯
吾、友枝高彦、大塚保治に送る、○伊藤吉之助、三田伊之松、
姉崎益子、角田松壽来る、○文科大学より来状、○書状を島
本愛之助に送る、○文科大学より使者来る、乃ち之に論文二
篇と書状とを付与す、○夜、James Ward, Heredity and
Memoryを読む、

三日、午前、晴天、橋本文壽より来状、○森良三郎来る、○巢
鴨池袋の田地百四拾七坪を豊田龍太郎より買受くることを約
す、○「孔子晩年の思想」新天地に出づ、○心理学科の口述
試験に大学に赴く、○午后、引続き、口述試験をなす、○中
島力造及び齋藤勇と共に三越に赴く、○澁澤栄一より書状と
鶴の子と鯉節とを送来る、○元田直、菓子壺箱を携来る、○
橋本文壽より「家族制度の将来」を送来る、○小西九兵衛よ
り書状と「輦輅の躑」とを送来る、○伊藤吉之助及び其他よ
り来状、○文科大学より使者来る、乃ち之に論文を付与す、
○夜、James Ward, Heredity and Memory 及び張子の「正蒙」

を読む、○此日、掃除、

四日、午前、半晴、帰一協会より来状、○荒木寛畝、去る二日死去すとの報あり、享年八十五、○建部遯吾、友枝高彦、飯田義一、蜷川龍夫より来状、○倫理科の口述試験を大学に行ふ、○不在中浅石富人、工藤誠一、田中義能来る、○島本愛之助来る、○有風、○午后、大塚保治より来状、○弘道館員、印税を携来る、○三井銀行に赴き、尋いで博品館に到る、○夜、興学会に山上御店に赴く、○吉田熊次、吉報を齎らし来る、○金港堂より来状、○Philosophical Reviewを送来る、○姉崎宅より報事のお物を送来る、

五日、午前、晴天、東亜協会より報告書来る、○神保如天、太宰施門、東亜協会々員となり、佐野善作、全賛助員となる、○土井林吉母の計報来る、○宮坂喆宗来る、○図書寮に赴き、古書画の展覧を観る、○山口鋭之助、本多辰次郎、外崎寛、境野哲等と会見す、○午后、神田の多賀羅亭に昼餐をなす、○辻本卯藏、市村瓚次郎より来状、○日本医学会に生理学教室に赴く、○夜、帝国学士院より来状、○「社会と道德」の原稿を整理す、○書状を上田学長に送る、○蓮沼門三より来状、○此日、縫子、櫻井ちか子の賀筵に赴く、

六日、午前、晴天、田中作太郎、浮田和民の紹介によつて来る、○三上義夫、森良三郎来る、○星野恒、使者を遣はし、書状を送来る、○縫子、春枝及び吉田雪子と共に農商務省商品陳列館に赴く、○午后、蜷川龍夫は「日本道德史〔二〕」を、境野哲は「印度支那仏教小史」を携来る、○夜、上田萬年、大

塚保治、建部遯吾、芳賀矢一、桑田芳藏、木村泰賢、友枝高彦、深作安文、大嶋正徳、宮本和吉、吉田熊次、伊藤吉之助、島本愛之助、四宮兼之を招き、慰勞の宴を開く、○小雨、○橘惠勝より来状、

七日、午前、雨天、橘惠勝より枇杷壺箱を送来る、○書状を市村瓚次郎、橘惠勝、橋本文壽に送る、○松浦伯爵より「青島遊記」を送来る、○太田秀穂、川島庄一郎、龍山義亮、野田義夫より来状、○建部遯吾、菓物壺箱を携来る、○松下禎二より来状、○午后、酒卷壽子、角田松壽、高橋穰、白井成允来る、○植木助作、東亜協会々員となる、○松尾圓治より来状、○弔詞を土井林吉に送る、○書状を本多日星に送る、○夜、「社会と道德」の原稿を弘道館員に付与す、○文科大学より来状、○「朱子心学録」を読む、

八日、午前、晴天、竹本長吉来る、○大学病院歯科に赴く、○「朱子心学録」を読む、○書状を星野恒に送る、○縫子、買物に外出す、○午后、「朱子心学録」を読む、○瀧精一、角田松壽来る、○日本案内状を長井沔、小林正策、東敬治、大野太衛、多田義堂、奥沢福太郎、尾原亮太郎、上原勇作、及びコーツに送る、○夜、辻本卯藏より来状、○大倉廣三郎、印税を携来る、○同文館の原稿を校正す、○「人格と修養」四百六拾部の奥附を広文堂に付与す、

九日、午前、雨天、学習院に赴く、学習院休業、○女学部に赴く、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○夜、帰一協会に上野精養軒に赴く、会員来らず、故に転じて市村瓚次郎の招待

に弁天の笑福亭に赴く、○雨愈々急なり、○九時半頃帰宅、
○高楠順次郎及び統合事務所より来状、○芳賀矢一より「筆
のまにまに」を寄贈す、

十日、午前、半晴、飯田義一及び Asiatic Society of Japan より来状、○原稿を整理す、○原稿を弘道館に送る、○書状を竹内康二及び高橋穰に送る、○試験の答案を作る、○午后、「筆のまにまに」を読む、○「生命の哲学」の修了試験を行ふ、○学生の答案を読む、○大野太衛より来状、○縫子、吉田宅に赴く、○Tagore, The Post Office を丸善より送来る、○夜、学生の答案を読む、○同文館の校正を訂正す、○此日、帝国議会閉会、

十一日、午前、雨天、文部省より辞令書来る、曰く、「教員検定委員会臨時委員被仰付」、○辻本卯藏及び近重眞澄より来状、○山崎數衛、朝倉尚綱、田中義能、島本愛之助、白石実三、淺石富人来る、○同文館の原稿を訂正す、○疏安会社及び其他より来状、○書状を疏安会社に送る、○縫子を三井銀行に遣はす、○午后、同文館の原稿を訂正す、○書状を向陵社に、原稿二篇を辻本卯藏に送る、○大塚保治、御礼の為に來る、○揮毫、○縫子、招待されて吉田宅に赴く、○富山房より「訂正増補朱子学派之哲学」を送来る、○製本屋来る、○山崎數衛来る、乃ち之に詩箋壹枚を付与す、○夜、島本愛之助より来状、○同文館の原稿を訂正す、
十二日、午前、曇天、校正見本を弘道館に送る、○大学病院の齒科に赴く、○竹本長吉来る、○竹内康二来る、乃ち之に写

物を付与す、○杉浦初太郎より来状、○「大日本経済叢書」第十三巻を送来る、○午后、反物壹反を竹本長吉に贈る、○書状を工藤誠一に送る、○丁酉倫理の原稿及び其他を訂正す、○史料編纂掛より来状、○「日本百科辞典」原稿来る、○書齋を整理す、○夜、向陵社より来状、○書状を帰一協会及び図書会社に送る、○原稿を訂正す、

十三日、午前、曇天、小杉熙、深作安文、須藤正憲、佐藤進一、工藤誠一及び製本屋来る、○縫子、高等師範に赴く、○午后、書状を杉山直喜に送る、○角田松壽来る、○太田稠夫来る、○帰一協会より来状、○夜、日本学会に山上御殿に赴く、上原勇作、佐藤鉄太郎、コーツ等と会見す、○帰一協会及び統合事務所より来状、○不在中吉田雪子来る、

十四日、午前、晴天、「東洋哲学史概説」の修了試験を行ふ、○高橋穰、飯田義一及び阿部維巖より来状、○F. Ewert, Zürich 及び Wochenblatt der Frankfurter Zeitung を送来る、○藤本眞光来る、○「陽明哲学」を訂正す、○午后、大橋秀治、今福忍来る、○引続き「陽明哲学」を訂正す、○文科大学より試験答案を送来る、○東亜協会より来状、○書状を島本愛之助に送る、○帰一協会より印刷物を送来る、○書状を統合事務所に送る、○「哲学と宗教」及び「人格と修養」を今福忍に贈る、○「陽明学」を読む、○夜、教員検定委員会及び河瀬秀治喜寿祝賀会より来状、○「陽明学」を読む、○「陽明哲学」を訂正す、○吉田夫妻来る、○書状を帝国学士院に送る、

十五日、午前、晴天、杉山直喜より速記を送来る、○文科大学及び高楠順次郎より来状、○大学病院歯科に赴く、○島本愛之助より来状、○午后、学生^の答案を読む、○「大^レ礼と国民教育」仙台日々新聞に出づ、○友枝高彦、角田松壽、宮坂喆宗来る、○文科大学々友会及び其他より来状、○夜、学生^の答案を読む、

十六日、午前、晴天、小栗三郎より来状、○学習院に赴く、○屋根屋来りて隣家の屋根を葺く、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○花見喜代次より来状、○夜、川面凡児、菓子壺箱を携来る、○学生^の答案を読む、○此日、不在中阿部莊二、原稿を携来る、

十七日、午前、晴天、花見喜代次より熊本城の写真を送来る、○太田資順より「樗牛兄弟」を送来る、○森良三郎、佐藤孝郷来る、○巢鴨の家屋税拾九円余を森良三郎に付与す、○「大^レ学時代の高山樗牛」樗牛兄弟に出づ、○学生^の答案を読む、○午后、撰氏三十度、学生^の答案を読む、○書状を島本愛之助及び白石実三に送る、○「時局論叢」を東亜協会事務所に送る、○書状を文科大学事務室に送る、○夜、学生^の答案を読む、○此日、晝屋来る、

十八日、午前、晴天、東亜協会より来状、○目黒書店より「世界の大勢と大正教育の方針」を送来る、○阿部莊二、甫守謹吾、白石実三、島本愛之助来る、○縫子、歯科医の処に赴く、○博文館より創立二十八週年紀念を送来る、○学生^の答案を読む、○午后、学生^の答案を読む、○「大^レ礼と国民教育」仙

台日々新聞に出づ、○太田資順、袱紗を携来る、○女中澄江を学習院に遣はし、報酬を受取り来らしむ、○飯田義一及び東亜協会より来状、○夜、豊国屋に晚餐を喫し、哲学会に山上御殿に莅む、○電報を小栗三郎に半田に発送す、○此日、大金来りてブランコ及び其他体操機械を修繕す、○瀧村斐男より「美学講和」を送来る、

十九日、午前、晴天、学生^の答案を読む、○文科大学事務室に赴き、尋いで桂辨三を工科大学に訪ふ、○弘道館より校正来る、○午后、文明協会より「現今之猶太種族」と「年^レ齡成長及死」を送来る、○原稿を島本愛之助に、書状を上宮教会に送る、○書状を土岐善麿に送る、○廣池千九郎来る、○夜、電報を飯田義一に送る、○八、二五東京駅出發、名古屋に赴く、

二十日、午前、晴天、六、一八名古屋市着、直に志那忠支店に赴く、○松本文三郎来る、○午后、徳源寺に赴き、人生問題に就き、一場の講演をなす、聴衆約八百名、○小栗三郎と徳源寺に会見す、○夜、六、一九名古屋市出發、七、三一半田町着、小学校講堂に於て精神修養講話をなし、今村貞太郎（視学）、長島戸平、（税務署長）、脇屋義純（郡長）、中島養吉、野村勝三郎（農学校長）、小栗清（町長）、日比恪（小学校長）等と会見す、聴衆約八百、○九、五九半田町出發、一一、五五豊橋市着、○此日、留守宅訪問者は松浦一、長井眞琴、押田三郎夫妻、○蓮沼門三より書状と稚茸を送来る、

廿一日、午前、晴天、一、四三豊橋市出發、九三〇東京駅着、

十時過帰宅、○「列聖全集」(第一回分)を送来る、○弘道館より校正来る、○午后、金澤長吉より来状、○上西半三郎来る、○縫子、吉田宅に赴き、尋いですみれ会に姉崎宅に赴く、○校正、○同文館より校正来る、○夜、校正、○休養、○此日、秋田県金澤長吉より来状、

廿二日、午前、小雨、校正、○女中澄江を東海銀行に遣はす、○本多日生より来状、○午后、晴天、日清印刷より校正来る、○白石実三来る、乃ち談話を筆記せしむ、○藤井慶乗より来状、○角田松壽来る、○校正、○夜、大槻快尊の送別会に山上御殿に赴く、

廿三日、午前、晴天、押田清子及び飯田義一より来状、○学習院に赴き、尋いで女学部に至る、○弘道館より校正来る、○午后、在英国補永茂助より来状、○山上御殿に赴き、検定試験の問題を定む、○夜、学友会に植物園に赴く、○弘道館より印税を送来る、○弘道館より校正来る、○白石実三より筆記原稿を送来る、○此日、縫子、吉田宅に赴く、

廿四日、午前、曇天、小雨、弘道館より校正来る、○丸善より来状、○大学より「大日本史料」壱冊を送来る、○竹内康二、写物を携来る、○森良三郎来る、○書状を太田資順に、「東亜の光」口絵解題を日清印刷に送る、○吉田宅より使者来る、○小栗三郎より来状、○校正、○午后、大阪の日蓮主義敬慕信徒協会より来状、○校正を弘道館に送る、○書状を蓮沼門三、花見喜代次及び飯田義一に送る、○竹本長吉来る、○Chambre de commerce de Paris より Facts about the War

を送来る、○夜、「教界春秋」を草す、○雨歇み、風あり、○此日、独逸より Wochenblatt der Frankfurter Zeitung を送来る、

廿五日、午前、雨天、文科大学より来状、○岩橋遵成、征矢野晃雄、鈴木弘来る、○国書刊行会より「徳川文芸類聚」(第十)及び「吾妻鏡」(第二)を送来る、○統合講習会より来状、○「教界春秋」を草す、○長井眞琴より来状、○午后、「教界春秋」を草し了りて之を日清印刷に送る、○時局懇談会に山上御殿に赴く、大島健一、床次竹二郎、高木壬太郎等と会见す、○不在中吉田豊吉、菓子及び絹地を携来る、○巢鴨村大字・新田堀ノ内・豊田龍太郎の田地・壱百四拾七坪を買受け、登記済となる、此代価金六四六・八〇〇・也、○夜、十時過帰宅、○蜷川龍夫、大野太衛及び鍋島侯爵より来状、○教科書会より書類来る、

廿六日、午前、晴天、森良三郎来る、○女中澄江を東海銀行に遣はす、○村上直次郎より「日蘭三百年の親交」を送来る、○弘道館より校正来る、○点数会議に山上御殿に赴く、○午后、書状を吉田熊次に送る、○弘道館より校正来る、○女中澄江を吉田宅に遣はす、○豊国屋に赴き、晚餐をなす、○夜、統一閣に赴き、「儒教と仏教」を講演す、聴衆約三百名、○慈恵医院より原稿を送来る、○帝国学士院及び東亜協会より来状、○此日、阿部康藏来る、

廿七日、午前、晴天、丸善より Tagore, The Crescent Moon を送来る、○阿部東作、宮本知道、岡村如山、合志覚照、柏

原文太郎、林甕臣来る、○土井林吉より来状、○加藤弘之八十の賀筵に上野精養軒に赴く、○午后、山崎龜太郎より来状、○不在中藤田季莊来る、○徳富猪一郎より来状、○夜、校正、○校正を弘道館に送る、○此日、「大日本仏教全書」を送る、

廿八日、午前、晴天、校正、○女中澄江を山中銀行に遣はす、○縫子、押田翼宅に赴く、○午后、曇天、中尾倍紀知、須藤新吉、西方秋郊、臼井龜雄、角田松壽、内ヶ寄京三郎、齋藤正雄、井上波野、吉田雪子来る、○文科大学、金港堂及び白石実三より来状、○校正を弘道館に送る、○弘道館より校正来る、○富山房の原稿を訂正す、○丸善より Autobiography of Maharsi Devendranath Tagore を送る、○夜、吉田熊次より来状、○富山房の原稿を訂正す、○帝国学士院及び高楠順次郎より来状、

廿九日、午前、雨天、校正、○やまと新聞社員来る、○原稿を市川浩に送返す、○書状を鍋島侯爵に送る、○金允植に関する談話、読売新聞に出づ、○午后、曇天、金式円を松村任三の為に、金壹円を石川千代松の為に、又金壹円を大沢謙二の為に送る、○金式円の為換入の書状を濱野知三郎に送る、○校正、○学習院女学部より御礼を送来る、○「陽明哲学」五十部の奥附を富山房に付与す、○教科書会より来状、○夜、内ヶ崎作三郎より来状、○校正を弘道館に送る、○赤司鷹一郎より来状、○書状を国民新聞社内国民年鑑部に送る、

卅日、午前、晴天、富山房より印税を送来る、○富山房、向陵

社及び細野繁勝等より来状、○細野繁勝よりやまと新聞壹束を送来る、○学習院に赴く、○三宅太郎来謝す、○女学部に赴く、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○松浦伯爵邸に赴く、○夜、八時半頃帰宅、○不在中女中澄江、文部省に赴く、○金港堂より印税を送来る、○山原三郎及び濱野知三郎等より来状、○不在中小山鞆繪及び植木殖来る、○「東亜の光」(十の七)成る、

七月

一日、午前、晴天、宮本和吉、岡村如山来る、○三井銀行に赴く、○井上円了、秋田県より書状と原稿とを送来る、○日蓮宗統合講習会員及び帰一協会より来状、○製本屋来る、○弘道館より校正来る、○午后、書状を帰一協会、統合大講習会、椎尾辨匡に送る、○教科書会に文部省に赴く、○夜、西原喜作来る、○教科書会より来状、

二日、午前、晴天、Gramatzky より Color Views and Guide Panama-Pacific Exposition を送来る、○土田誠一、宮本和吉、深作安文、島本安之助、波多野精一、藤本眞光、林勃爾来る、○中尾倍紀知来る、乃ち談話を筆記せしむ、○午后、井村日威御礼の為に来る、○教科書会に文部省に赴く、○夜、Gramatzky 及び東亜協会並に栗山潮水より来状、○古澤清明来る、

三日、午前、曇天、椎尾辨匡、常盤大定、古澤清明来る、○書状を帝国学士院に送る、○午后、臼井成允来る、○教科書会に文部省に赴く、○有賀長雄より「帝室制度稿本」を送来る、

○鍋島直大侯及び他より来状、○夜、校正、
 四日、午前、曇天、撰氏二十度、日本婦人社より原稿を送来る、
 ○宮本和吉、飯島忠夫、宇野哲人、齋藤精輔、白井成允、竹
 本長吉、岡村如山、来る、○午后、角田松壽、小山鞆繪来る、
 ○運動に大塚方面に出づ、○村井知至より書状と「無絃琴」
 とを送来る、○東亜協会より来状、○古賀行義、石本音彦、
 黒田亮、(新卒業生)、東亜協会々員となる、○夜、校正、
 五日、午前、曇天、校正、○岡村如山来る、○磯江潤よりビー
 ル壺打券を送来る、○帝国学士院授賞式に赴く、○午后、学
 士院例会に出づ、○原稿を校正して之を白石実三に送る、○
 弘道館より「山鹿素行先生」を送来る、○広文堂員来る、○
 小雨、○夜、雨天、村岡典嗣の原稿を読む、○此日、不在中
 宮坂喆宗来る、
 六日、午前、雨天、撰氏二十度、文科大学より来状、○土田誠
 一来る、○書状を宮坂喆宗に送る、○村岡典嗣の論文を読む、
 ○井上友一より来状、○新修養社より新脩養を送来る、○国
 定教科書草案を読む、○書状を宮本和吉に送る、○午后、校
 正を弘道館に送る、○弘道館より校正来る、○高島平三郎及
 び藤井健治郎より来状、○富田政喜より縫子に來状、○「武
 士道の精華」秋田時事新聞に出づ、○不在中宮坂喆宗来る、
 ○夜、宮本和吉来る、○校正、
 七日、午前、曇天、撰氏十八度、珍書同好会より「日本風土記」
 (乾)を送来る、○浦谷熊吉来る、○丸善より The Folk-
 Element in Hindu Culture を送来る、○「学生宝鑑」壱百部

の奥附を大倉書店に付与す、○午后、教授会に山上御殿に赴
 く、○夜、帰一協会に上野精養軒に赴く、席上服部、海老名、
 MacCauley 及び Coates の送別の辞を述べ、○十一時頃帰宅、
 ○文科大学より来状、○此日、印度人 Benoy Kumar Sarkar
 と帰一協会に会見す、
 八日、午前、晴天、帝国学士院及び中村弥助より来状、○宮坂
 喆宗及び島本愛之助来る、○広文堂よりハンケチ壺打を、東
 京社より小包を、深作安文より手籠を送来る、○書状を鍋島
 侯爵に送る、○佐々木英夫、東亜協会々員となる、○午后、
 甫守謹吾、伊藤吉之助来る、○書状を三上参次に送る、○運
 動に巢鴨方面に出づ、○途上伊澤千世子に逢ふ、○夜、光風
 館員四海民藏、印税と菓子壺箱を携来る、○宮坂喆宗より来状、
 九日、午前、晴天、卒業式に大学に赴く、○三上参次、堀江久
 勝、より来状、○午后、国民新聞社員大竹博吉来る、○鍋島
 侯爵全婦人の賀宴に本邸に赴く、水野練太郎、杉浦重剛、久
 米邦武、後藤新平、朝比奈知泉等と会見す、○帰一協会より
 来状、○夜、孔子祭典会より会報と聖蹟葉書を送来る、○島
 本愛之助より来状、
 十日、午前、晴天、柏原文太郎来る、○電話使用料金拾六円五
 拾銭を郵便局に納む、○日本婦人社の筆記を訂正す、○青年
 病に関する談話、国民新聞に出づ、○前川文栄閣より奈良漬
 壺箱を送来る、○日本経済叢書刊行会より団扇壺箱を送来る、
 ○午后、原稿を速達にて日本婦人社に送る、○縫子、高子を
 拉して姉崎及び吉田宅に赴く、○校正、○伊澤修二より菓物

大籠を送来る、○空曇りて風冷なり、○生沼大造来る、○夜、橋口長一、来る、有故不遇、○星野日子四郎来る、乃ち談話を筆記せしむ、○校正、○校正を弘道館に送る、

十日、午前、曇天、橋口長一来る、乃ち談話を筆記せしむ、○征矢野晃雄来る、○島本愛之助来る、乃ち之に金壺百五拾円を付与す、○黒田侯の詩を批評す、○穂積陳重の為に金貳円を土方寧に送る、○赤松秀景（宗教）、土田誠一、（哲学）、合志覚照（心理）、天野庄次郎（教育）、匹田直（西史）、小笠原行照（国史）六名、東亜協会々員となる、○木村武雄（国民新聞社員）来る、乃ち体罰に就いて意見を述べ、○同文館より文房具壺箱を送来る、○宣光、高等学校の試験を受く、○午后、思誠堂員来る、○書状を中島利一郎に送る、○斯文学会より来状、○森良三郎より書東箋壺箱と菓子とを送来る、○弘道館より茶器壺箱を送来る、○角田松壽来る、乃ち之に菓子壺缶を付与す、○書状を岡野義三郎に送る、○製本屋、鶏卵壺箱を携来る、○修養団より来状、○夜、「為学初問」を読む、○丸善よりビール壺打を送来る、○此頃、小林義則より茶器を、井上成美より醬油を送来る、

十二日、午前、曇天、「為学初問」を読了る、○縫子、春枝と共に姉崎正治を迎ふる為に東京駅に赴く、○鈴木郁翁来る、乃ち談話を筆記せしむ、○「まがのひれ」を読む、○宣光、引続き試験を受く、○姉崎正治、一〇、五〇東京駅着、○午后、「まがのひれ」を読む、○修養団員、鶴藤幾太と共に来る、乃ち談話を筆記せしむ、○一宮弘人より菓子壺箱を、晚成処

より白布を、尼子止より文房具を送来る、○白井成允、齋藤精輔等より来状、○富山房よりタフル壺箱を送来る、○夜、「周南文集」を読む、○書状を杉山直喜に送る、

十三日、午前、晴天、大津康、杉浦初太郎より来状、○大野太衛、宮坂誠司来る、○栢原文太郎、田邊唯司、十時彌、吉田熊次来る、乃ち結婚の事を相談し、尋いで昼餐を共にす、○大倉書店よりビール壺箱を、押田三郎よりシャツを、光風館より漆器を、修養団よりシャツを送来る、○午后、博文館よりビール小箱を送来る、○白井成允、カタロギジュールングの為に来る、○原稿を整理す、○小山良子、及び製本屋来る、○文明協会より砂糖を、島本愛之助より葡萄酒六本を送来る、○菓子を川端、中洲、甘木、村末、押田三郎及び田中次郎に送る、○齋藤基次郎より葡萄酒二罎を送来る、○浅倉屋より菓子壺箱を送来る、○夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○原稿を訂正す、

十四日、午前、晴天、学習院女学部へ赴く、部長室に於て相談をなす、○吉田静致より菓子壺箱を、吉田修夫より志らが素麵壺箱を送来る、○伊藤吉之助、四宮兼之来る、○菓子を押田翼、齋藤儀八、に送る、○乾葡萄酒を花ノ先生に、五円の商品券をオルガンの先生に、ビール壺打を姉崎宅に、反物を森良三郎に、葡萄酒三本を竹本長吉に送る、○竹本長吉来る、乃ち之と相談をなす、○午后、笹川老母鶏卵箱を携来る、○原安三郎よりシトロソ券を、上野精養軒より末広を送来る、○白井成允来る、○帝国学士院及び其他より来状、○弘道館

より校正来る、○午后、帰一協会に上野精養軒に赴く、○夜、十時半頃帰宅、暑気甚し、摂氏三十一度、○春木一郎より「Confarreatio 及び Coemptio の起原方式に付て」を送来る、○此頃、文成社よりビール壺箱を、林平次郎よりビール半打を送来る、

十五日、午前、晴天、岡野義三郎及び島本愛之助より来状、○修養団員松本虎雄より原稿と書状とを送来る、○宮坂喆宗来る、○鶴岡五郎（日進堂）、菓子壺箱を携来る、○女中澄江を遣はし、鶴澤総明宅に縮緬壺反と金三八、一八を送る、○澄江、訴訟書類を携帰る、○紹宅反を弘田長に送る、○午后、斯文学会に赴く、○杉山直喜より速記を送来る、○澄江を遣はして品料金式拾円を石原久に送る、○遠藤隆吉よりビール半打を送来る、○速記を訂正す、○暑気甚し、○夜、速記を訂正す、○夜、速記を訂正す、○澁澤栄一より来状、○書状を斯文学会に送る、

十六日、午前、晴天、宮坂喆宗、島本愛之助、角田松壽、大津康、加藤玄智妻来る、○吉田宅よりベルモット二瓶を送来る、○午后、白井成允来る、○教科書会に大学に赴く、○夜、帝国学士院より来状、○夜、速記を訂正す、○暑気甚し、十七日、午前、曇天、帰一協会より来状、○法政大学より「支那法制史論」を送来る、○速記を訂正す、○縫子、春枝を拉して三越に赴く、○斯文学会より来状、○天霽る、○午后、晴天、速記を訂正す、○原稿を速達にて島本愛之助に送る、○「古学哲学」の附録四成る、○富山房来る、乃ち之に原稿

を付与す、○原稿を訂正して之を修養団本部に送る、○夜、「社会と道德」の原稿を訂正す、

十八日、午前、晴天、長井眞琴、砂糖壺箱を携来る、○横井忠直、得能文来る、○細野繁勝来る、乃ち談話を筆記摂氏む、○角田松壽来る、○宮津栄太郎より来状、○午后、鶴岡五郎、「二刀劍辞典」を携来る、○原稿を訂正す、○校正を弘道館に送る、○服部姉崎送迎会に澁澤邸に飛鳥山に赴く、○夜、十時過、帰宅、○遠藤光貞、富田春山、及び修養団本部より来状、

十九日、午前、晴天、山出半次郎、山崎亀太郎、塩谷温、北村澤吉、堀謙徳等より来状、○委員会に帝国学士院に赴く、○西正寺より来状、○午后、梅澤天風来る、○書状を山崎亀太郎、山出半次郎、高橋作衛に送る、○哲学会開催の服部姉崎送迎会に山上御殿に赴く、○夜、九時頃帰宅、○此日、「御製集」第二巻及び「日本経済叢書」第十四巻を送来る、○法貴慶次郎より団扇を送来る、

二十日、午前、晴天、大津康より書状と独逸新聞とを送来る、○清水正巳、齋藤弔花の書状を携来る、○森良三郎来る、○原稿を角田松壽及び富山房に送る、○松本虎雄より来状、○「我國に於ける宗教の運命」法之光に出づ、○宮本和吉来る、○午后、校正、○角田松壽来る、○吉堀毅（萬朝報記者）来る、乃ち談話を筆記せしむ、○斯文学会に赴く、○夜、休養、廿一日、午前、晴天、益之進、高子、女中松枝と共に御殿場に赴く、○秦政治郎及び武藤儀亮より来状、○細野繁勝より書

状と原稿とを送来る、○校正、○百科辞典会より来状、○姉崎老母、贈物（二種）を携来る、○校正を弘道館に送る、○午后、市澤弥一來る、乃ち談話を筆記せしむ、○白井成允来る、○校正、○校正を弘道館に送る、○中熊直喜及び婦一協会より来状、○夜、齋藤儀八及び婦一協会より来状、○校正、○校正を弘道館に送る、

廿二日、午前、晴天、宇野哲人、蓮沼門三来る、○校正、○高木壬太郎より書状と著書（生活と宗教）とを送来る、○石丸秀次郎より来状、○校正を弘道館に送る、○井上健児よりカステイラ壺箱を送来る、○竹本長吉来る、○午后、校正を弘道館に送る、○星野筑洲来る、乃ち「九州の文化及び文学」に就いて談話し、之を筆記せしむ、○白井成允来る、○松浦一より来状、○速記を訂正す、○夜、書状と電報とを岡野義三郎に送る、○「東亜の光」口絵解題を日清印刷に送る、○岡野義三郎より返電来る、○弘道館より校正来る、○書状を清水正巳に送る、

廿三日、午前、晴天、国書刊行会より「徳川文芸類聚」（第四）を送来る、○秦政治郎、山崎惟治来る、○田中二郎の計報来る、○山出半次郎より来状、○宣光を大学に遣はす、○午后、速記を訂正す、○石丸秀次郎来る、○日清印刷より校正来る、○岡野義三郎より来状、○夜、縫子、春枝と共に吉田宅に赴く、○廣田直三郎及び高瀬武次郎より来状、○吉田宅近火あり、○「教界春秋」を草す、

廿四日、午前、晴天、岡野義三郎及び丸善より来状、○竹本長

吉来る、○市澤弥一、原稿を携来る、○吉田熊次来る、乃ち会談、春枝結婚の事を議す、○宅地租金七、五八五及び府税市税金二、五五五、合計金一〇、一四〇を郵便局に納む、○床屋に赴く、○午后、齋藤弔花より来状、○「教界春秋」を草す、○文明協会より「欧米之製造業」及び「近世独逸社会思潮」を送来る、○吉田熊次来り、尋いて柏原文太郎来る、○春枝をして田邊唯司に嫁せしむることに決定す、○「教界春秋」を日清印刷に送る、○小中村清象来る、○齋藤謙藏より電報来る、○夜、岡野義三郎より電報来る、

廿五日、午前、七、三〇東京駅出發、○午后、一二、一五御殿場着、正勝、益之進、山出半次郎及び番人来迎ふ、乃ち山出半次郎の案内にて実業学校に赴き、一場の講演をなす、聴衆約三百余名、狩野辰男、山崎正義、高杉貞一、齋藤三郎、梶正雄等と会见す、○東山の別荘に赴く、高杉貞一送来る、○夜、七、四二御殿場出發、車中原田助に逢ふ、○八、二五沼津着、千本松原に赴く、風光絶佳、○一〇、一八沼津出發、○留守宅、酒卷壽子、清水正巳の使者来る、○目黒書店より菓子を送来る、○香典を田中二郎男壽に送る、

廿六日、午前、八、〇七大阪着、齋藤弔花京都迄来迎す、○大阪ホテルに赴く、○午后、大阪市民講座に赴き、「山鹿素行と乃木大将」を講述す、○松本朝吉、宮島茂次郎、田村菊次郎、田中兵太郎、若林常順、山崎定義、河内茂太郎、飯田吉太郎、小河滋次郎、高原操等と会见す、○竹越與三郎と大阪ホテルに会談す、○夜、懇親会に出づ、○九、五六大阪出發、

○留守宅白井成允来る、

廿七日、午前、晴天、車中山崎直方と会见す、○午后、

一二、五〇東京駅着、一、三〇頃帰宅、○不在中齋藤謙藏、大

江文城、北原種忠、及び文科大学等より来状、○中島慎一、ビー

ル壺打券を携来る、○得能文、菓子壺箱と玉杯壺筒を携来る、

○大類伸、著書を携来る、○岡島誘来る（以上不在中）○大

橋秀治来る、○夜、藤田季莊来る、○長沼鷺城より来状、○

此日、汽車中矢野玄道の「志きのくがだち」を読む、○宣光、

高等学校試験に及第し、鹿兒島造士館に入学することとなる、

廿八日、午前、曇天、清涼、土田誠一來る、之に五六部の書類

を貸附す、○柏原文太郎、十時弥、結納を携来る、乃ち昼餐

を共にす、○押田清子帯地を携来る、○午后、Tagore, The

Crescent Moon 及 Autobiography of Mahars

Devendranath Tagore を購入す、○「青年病救済策」遼東

新報に出づ、○書状を文科大学に送る、○書状を速達にて伊

藤吉之助に送る、○白井成允来る、○縫子、清子及び春枝と

共に三越に赴く、○伊藤吉之助来る、○速達を訂正す、○夜、

速記を訂正す、

廿九日、午前、半晴、小澤錦十郎、野田義夫、大橋秀治より来

状、○「古神道の性質に就いて」神風に出づ、○伊藤吉之助

来る、乃ち結納品壺切を携へて柏原文太郎宅に赴く、○山口

察常及び角田松壽来る、○速記を訂正す、○吉田雪子来る、

○午后、晴天、伊藤吉之助、復命し来る、○速記を訂正す、

○縫子、雪子及び春枝と共に三越に赴く、○角田松壽来る、

○夜、文部省より検定試験答案を送来る、○速記を訂正す、

○此日、宣光、御殿場の別荘に赴く、

三十日、午前、半晴、速記を訂正す、○島本愛之助来る、○沼

田龍雄、神林隆浄、高野正治、千輪清海、東亜協会々員とな

る、○石川泰往、東亜協会退会、○「大日本仏教全書」を送

来る、○小西二十五万樓藥房より来状、○午后、速記を訂正

す、○宮坂喆宗来る、○「東亜の光」(十の八) 成る、○「神

道と世界宗教」東亜の光に出づ、○西洞道野来る、乃ち談話

を筆記せしむ、○岡野義三郎、石丸秀次郎及び弘道館より来

状、○夜、市澤弥一來る、乃ち丁酉倫理の原稿を付与す、○

書状を石丸秀次郎に送る、○校正、○此日、内務大臣子爵大

浦兼武依頼免本官、○内閣総辞職、

卅一日、午前、晴天、藤井健治郎来る、○「神道と日本の将来」

向上に出づ、○校正を弘道館に送る、○女中澄江を東海銀行

に遣はす、○「青年の煩悶自殺と其救済法」新脩養に出づ、

○富山房より校正来る、○校正、○小山鞆繪、蓮沼門三来る、

○金澤長吉、富岡永馬より来状、○「日本大藏経」を送来る、

○鈴木俊行より来状、○午后、校正を弘道館に送る、○富山

房及び弘道館より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○小

山鞆繪妻来る、○西洞道野より原稿を送来る、○園田徳太郎

より来状、○書状を岡野義三郎及び井上健児に送る、○夜、

江部淳夫より来状、○書状を酒井佐保及び小山鞆繪に送る、

○校正、○七月中元の到来物如左、

ビール壺打

丸善

菓子壺箱

一宮弘人

白布	晩成処	文房具	尼子止
タワル壺箱	富山房	醤油	井上成美
鶏卵壺箱	製本屋	菓物及其他	神田
菓物大籠	伊沢修二	団扇壺箱	日本経済社
文房具	同文館	茶器壺箱	弘道館
茶器	小林義則	菓子壺箱	光風館
菓子壺箱	浅倉屋	砂糖壺箱	長井真琴
書束箋及菓子	森良三郎	ハンケチ壺打	広文堂
手籠	深作安文	シヤツ	押田三郎
シヤツ	修養団	漆器	光風館
ビール小箱	博文館	葡萄酒六本	島本愛之助
洋酒二本	斎藤基次郎	シトロソ券	原安三郎
末広	上野精養軒	鶏卵箱	笹川老母
菓子壺箱	吉田静致	砂糖	文明協会
ビール壺箱	文成社	ビール半打	林平次郎
菓子壺箱	日進堂	ビール半打	遠藤隆吉
洋酒二本	吉田熊次	団扇	法貴慶次郎
ビール壺打券	中島愼一	カステーラ	井上健児
ビスクイット三缶	姉崎正治	紅茶壺缶	押田翼
ビスケット	目黒書店	ハンケチ二打	六盟館
漬物壺樽	成美堂	ビール壺打	大倉書店

(むらかみ こずえ 東京大学文書館)
(もりもと さちこ 東京大学文書館)